

③ 利水事業などに関するご意見

【平成20年2月6日現在】

多くのご意見をいただきましたので、現時点では河川管理者の考え方の記述に精粗がありますことをご容赦願います。

「多くのご意見をいただきましたので、現時点では河川管理者の考え方の記述に精粗がありますことをご容赦願います。」

意見をいただいた方法	開催場所	いただいたご意見	いただいたご意見に対する考え方	記載箇所
第1回ふれあい懇談会	瑞穂会場	河川の利用、利水は萬物の生物には不可欠な事柄です。昔と違って、利用する、利水する事にだけ集中している。其処で水源となる森・田・山の水を生みだす根源をわずれ人間の利益だけの利水になってないか、現在戦後60年、森・山・田・畑・社会・学校・自治会の崩壊になっているのも人間、とりわけ行政の体験のない机上のみになっていると思われます。諺にあるように毎日利用する不可欠な水に感謝する事を日本人は水は無料であるかのような社会になっています。標題のQ7と少し違いますけれど、水の根源の森があって利用、利水する事に感謝しましょう。	貴重なご意見ありがとうございます。引き続き、河川水の適正な利用に努めて参ります。	第3章第1節第2項 河川水の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項
第2回ふれあい懇談会	一宮会場	常時維持用水の確保は必要である。大賛成です。	動植物の生息・生育等の河川環境を改善するため、維持流量の確保に努めてまいります。	第3章第1節第2項 2(1) 河川環境の改善
第1回ふれあい懇談会	岐阜会場	長良橋上流域の安定水位の確保。長良橋水位14.70m	流水の正常の機能の維持については、動植物の生息・生育等に必要な河川環境を改善するため、長良川については、右欄記載箇所のように考えています。	第3章第1節第2項 2(1) 河川環境の改善
第3回ふれあい懇談会	岐阜会場	忠節橋の正常流量は26m ³ /sで1/10、20m ³ /s 異常渇水11m ³ /sと他河川に比べ低い。木曾川8割、揖斐6・7割、長良4割弱導水で補給してください。下流部で木曾川に戻してもよいから。	流水の正常の機能の維持については、動植物の生息・生育等に必要な河川環境を改善するため、長良川については、右欄記載箇所のように考えています。	第3章第1節第2項 2(1) 河川環境の改善
第2回ふれあい懇談会	美濃加茂会場	水量が常にあり、自然生物が生き長らえる川・・・ダムで調整	河川環境の改善のため、新丸山ダムの建設及び木曾川水系連絡導水路の整備を行い、1/10規模の渇水時及び異常渇水時(平成6年渇水相当)においても、河川環境の保全等のために必要な流量の一部を確保します。	第3章第1節第2項 2(1) 河川環境の改善
第1回ふれあい懇談会	揖斐川会場	水位が下がりが続くと水辺の生物に悪影響が出る。或いは流水が切れて生物が生活できなくなる。最低限必要な水量を確保して安定的に水を流す。	動植物の生息・生育等の河川環境を改善するため、維持流量の確保に努めてまいります。	第3章第1節第2項 2(1) 河川環境の改善
第1回ふれあい懇談会	瑞穂会場	「ニシバタ」に住んでいるが冬場に水路が涸れる。通年水量を確保できないか？住民の水に対する考え方、きれいに保とうとする意識が生まれるのでは？	身近な水路の環境について、住民方々が意識を持って頂く事が重要だと認識していますが、通年で水量を確保する事で河川水が減る事になります。河川環境との調和をどのように図るか、環境用水のニーズを把握するとともに、関係自治体とともに協議し、今後論議を深めていきたいと考えています。	第3章第1節第2項 2(1) 河川環境の改善
第1回ふれあい懇談会	犬山会場	頭首工ができて犬山が変わった。ライン大橋から下4kが沼のようになっている。	犬山頭首工は、安定した取水が出来ない事を解消するために堰を設け取水口を統合し安定した取水を行うために造られた施設で、年間を通じ取水しているため一定の水位を保つ必要があります。また、犬山頭首工から下流の河川水については、新丸山ダム及び木曾川水系連絡導水路の建設によって改善を図ります。	第3章第1節第2項 2(1) 河川環境の改善
第2回ふれあい懇談会	美濃加茂会場	新丸山ダムの完成で不特定補給により維持流量の確保を期待したい(40m ³ /s)	河川整備計画原案(案)において、洪水、高潮等による災害の防止又は軽減に関する事項、河川水の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項に「新丸山ダムの建設」を位置づけております。この新丸山ダム建設については、早期完成に向け着実に事業を推進します。	第3章第1節第1項 1(3)① 新丸山ダムの建設
ハガキ	-	<木曾川における整備事業> 同上ダム(新丸山ダム)完了する事により河川水の管理がシステム化され、愛知県方面に使用する水の安定供給が見込まれると思う。	引き続き、河川水の適正な利用に努めて参ります。新丸山ダムは、洪水調節、不特定補給を目的としたダムで、愛知県方面の用水への補給を目的としたダムではありません。	第3章第1節第2項 2(1)① 新丸山ダムの建設
第2回ふれあい懇談会	美濃加茂会場	可児川は水量が少ない。新丸山ダムが完成したら可児川にも配分してほしい。また、河床が上昇し、河原が荒地化？しているので浚渫もお願いしたい。	可児川の河川整備計画については、岐阜県において策定予定とのことです。いただいたご意見については、管理者にお伝えします。	第3章第1節第2項 2(1)① 新丸山ダムの建設
第2回ふれあい懇談会	美濃加茂会場	費用面からも新丸山ダムの建設はスピードアップしてほしい。また、進捗を適宜報告してほしい。	河川整備計画原案(案)において、洪水、高潮等による災害の防止又は軽減に関する事項、河川水の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項に「新丸山ダムの建設」を位置づけております。この新丸山ダム建設については、早期完成に向け着実に事業を推進します。	第3章第1節第1項 1(3)① 新丸山ダムの建設

「多くのご意見をいただきましたので、現時点では河川管理者の考え方の記述に精粗がありますことをご容赦願います。」

意見をいただいた方法	開催場所	いただいたご意見	いただいたご意見に対する考え方	記載箇所
第4回ふれあい懇談会	岐阜会場	愛知用水地域の水不足は解消すべきで、そのために揖斐川の水を持って行くことはやむを得ないが、それは丸山ダムをいつまでも造らないからである。	新丸山ダムは、洪水調節、不特定補給を目的としたダムで、愛知用水への補給を目的としたダムではありません。	第3章第1節第2項2(1)① 新丸山ダムの建設
第1回ふれあい懇談会	羽島会場	水1t10億とも100億とも聞いています。輸入大国の日本は外国のとぼしい水で生産された多くの生品を消費しているのです。将来世界的に水不足の時代が来る。我々は水の大切さ深く認識すべきである。小生15年余前に10日間ロンドン～パリ～ストックホルムへ行きましたが10日間水は一度も飲めませんでした。幸い木曾三川による恩恵を感謝するとともに与えられた資源を大切に守って行かなければなりません。将来水不足と災害に備えて三大河川を一体化し循環して利用できないでしょうか。洪水渇水、地震災害などにも対処できる構造を考えてみたらと思います。	木曾川水系連絡導水路等を最大限に活用し、水系全体の総合運用の実施に向け関係機関と調整してまいります。	第3章第1節第2項2(1)② 木曾川水系連絡導水路の建設
第1回ふれあい懇談会	大垣会場	徳山ダムの利用について 現在、道路は美濃～豊田へと環状線沿いに工業団地化がすすんでいます。しかし、この沿線には、地下水が無く、水利用の製造業者はあきらめざるをえません。そこで徳山ダムの水がそちらへ供給されるならば地域経済はうるおうものと思います。但し、お魚のための補水を除くと地形(ダム涵養域の面積がそれほど大きくないし、木の成育も悪いので、はたしてどれくらい見込めるものか?)。先づ、本当に必要とされる地に提供してあげて様子見してから他への計画配分するよう地道にすすめていただければ幸いです。	木曾川連絡導水路は徳山ダムで開発した都市用水を木曾川に導水し、愛知・東濃用水や木曾川川用水供給区域の利水安全度の向上に役立ちます。	第3章第1節第2項2(1)② 木曾川水系連絡導水路の建設
第1回ふれあい懇談会	各務原会場	徳山ダム、長良川河口堰も含めて、この地区に利水の目的の施設は必要性が薄いと思います。当然重要な施設は数多くありますが、今後は考える必要はないと思います。	近年、降水量が減少していること等から、木曾川に係る用水では毎年のように渇水が頻発しています。木曾川水系連絡導水路は木曾川水系の異常渇水時において河川環境を改善する他、木曾川に係る用水の渇水被害を軽減するものであり、必要な事業であると考えています。	第3章第1節第2項2(1)② 木曾川水系連絡導水路の建設
第3回ふれあい懇談会	岐阜会場	導水路事業には反対である。	近年、降水量が減少していること等から、木曾川に係る用水では毎年のように渇水が頻発しています。木曾川水系連絡導水路は木曾川水系の異常渇水時において河川環境を改善する他、木曾川に係る用水の渇水被害を軽減するものであり、必要な事業であると考えています。	第3章第1節第2項2(1)② 木曾川水系連絡導水路の建設
第1回ふれあい懇談会	可児会場	この川に八百津から木曾川の水を導入できないか。21世紀事業として考えられないか。愛知用水事業の大成功。最近では名古屋市の堀川への木曾川の水、夢ではないと思います。勿論地元からの熱い声が必要と思いますが・・・	今後、地域要望も踏まえ、検討してまいります。	第3章第1節第2項2(1)② 木曾川水系連絡導水路の建設
第1回ふれあい懇談会	各務原会場	徳山ダムの利水のため、西平ダムから坂祝町への導水路が計画されていますが、各務原市の上水道源が地下水に依存しているので導水路建設後の地下水流に変化があるのではないかと心配している。導水路調査結果は必ず公表して欲しい。	今後も引き続き、調査等の事前周知や調査結果等について、機会ある毎にお知らせしていくことを考えています。	第3章第1節第2項2(1)② 木曾川水系連絡導水路の建設
第1回ふれあい懇談会	各務原会場	木曾川導水路の調査で、各務原付近はトンネルを掘ると想定され、地下水の流れが変わることが想定される。調査結果について説明する機会をもうけて欲しい。	今後も引き続き、調査等の事前周知や調査結果等について、機会ある毎にお知らせしていくことを考えています。	第3章第1節第2項2(1)② 木曾川水系連絡導水路の建設
第3回ふれあい懇談会	岐阜会場	導水路計画についてもっと詳しく知りたい。	これまでの検討結果について、木曾川上流河川事務所のホームページに掲載しております。今後も引き続き、情報公開に努めます。	第3章第1節第2項2(1)② 木曾川水系連絡導水路の建設
第1回ふれあい懇談会	犬山会場	木曾三川を導水路でつなげる事はできませんか。	今回の木曾川水系河川整備計画の中に、木曾三川を結ぶ木曾川水系連絡導水路の整備を位置付けたいと考えています。	第3章第1節第2項2(1)② 木曾川水系連絡導水路の建設
第2回ふれあい懇談会	一宮会場	温暖化防止策への三川の効果的利用もメニューに加えるべき。	異常渇水対策として木曾三川を繋げる木曾川水系連絡導水路の建設の推進を考えております。	第3章第1節第2項2(1)② 木曾川水系連絡導水路の建設

「多くのご意見をいただきましたので、現時点では河川管理者の考え方の記述に精粗がありますことをご容赦願います。」

意見をいただいた方法	開催場所	いただいたご意見	いただいたご意見に対する考え方	記載箇所
第2回ふれあい懇談会	名古屋会場	徳山ダム工事中に横山ダムの工事の様子を少し見ましたが現有ダムの効率向上はとていい事だと思います。導水路工事に当たり一部トンネル工事の難しい所が(本巢地区?)あるようですがこうした所は迂回してダムの土砂・河道の土砂を使って土盛工事をされてはどうでしょうか。	十分な地質調査を行い、ご意見も参考にしながら導水路の設計を行ってまいります。	第3章第1節第2項 2(1)② 木曾川水系 連絡導水路の建設
第2回ふれあい懇談会	名古屋会場	徳山ダム水の一部を長良川へ導水放流し流量維持を図ることは大変よろしい。特にその思慮を受けられる中流域では慢性的な流量不足と水質悪化はひどいようです。これを導流水で改善することこそ水の管理と利用にかなうものと思います。	いただいたご意見を参考に、河川水の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に努めます。	第3章第1節第2項 2(1)② 木曾川水系 連絡導水路の建設
第3回ふれあい懇談会	岐阜会場	導水路事業で、長良川の渇水時の流量をもっと増やしてほしい。揖斐川、木曾川に比べて少ない。	流水の正常の機能の維持については、それぞれの河川において動植物の生息・生育等に必要河川環境を改善するため必要な流量を検討しています。なお、木曾川水系連絡導水路については、その時々々の渇水状況を踏まえ、有効に運用したいと考えています。	第3章第1節第2項 2(1)② 木曾川水系 連絡導水路の建設
第3回ふれあい懇談会	岐阜会場	導水路の必要性についても、水利権の見直しを先に進めるべき。	木曾川水系連絡導水路のみならず、渇水被害の最小限化を図るため、既存水資源開発施設の有効利用や既得水利の合理化推進について関係機関と調整してまいります。また、情報公開に努めてまいります。	第3章第1節第2項 2(1)② 木曾川水系 連絡導水路の建設
第3回ふれあい懇談会	岐阜会場	導水路建設は、水利用などもっと住民に説明してから計画すべき。	木曾川水系連絡導水路については関係市町や漁業関係者に対する説明の他、木曾川水系河川整備計画の策定手続きにおいて流域委員会やふれあい懇談会の中で説明、議論を重ねているところです。	第3章第1節第2項 2(1)② 木曾川水系 連絡導水路の建設
第3回ふれあい懇談会	岐阜会場	<揖斐川> 治水上の「心配」の大きい箇所が多くあることがわかった。「治水」事業を進めるにあたって根拠不明な「異常治水に対処するための導水路」建設に多額の投資をするべきでない。(揖斐川の水を収奪されるいわれない)	近年、降水量が減少していること等から、木曾川に係る用水では毎年のように渇水が頻発しています。木曾川水系連絡導水路は木曾川水系の異常渇水時において河川環境を改善する他、木曾川に係る用水の渇水被害を軽減するものであり、必要な事業であると考えています。	第3章第1節第2項 2(1)② 木曾川水系 連絡導水路の建設
第3回ふれあい懇談会	岐阜会場	木曾川導水路について。国土交通省の説明によると木曾川までの導水路が必要なのかなと思いますが、岐阜県の住民は水不足で困っていません。愛知県の出発点も「木曾川まで水が来るのならば要求します」との事でした。木曾川まで導水する必要はないと思います。	近年、降水量が減少していること等から、木曾川に係る用水では毎年のように渇水が頻発しています。木曾川水系連絡導水路は木曾川水系の異常渇水時において河川環境を改善する他、木曾川に係る用水の渇水被害を軽減するものであり、必要な事業であると考えています。	第3章第1節第2項 2(1)② 木曾川水系 連絡導水路の建設
第3回ふれあい懇談会	岐阜会場	導水の方法をもっと考えるべきである(可児まで持って行かなくても良いのでは)	木曾川水系連絡導水路のルートは、河川環境の改善効果や利水補給効果及び経済性等を総合的に検討し、上流施設の放水口は木曾川の坂祝地区を計画しています。	第3章第1節第2項 2(1)② 木曾川水系 連絡導水路の建設
第3回ふれあい懇談会	岐阜会場	長良川で水不足による被害は聞いたことが無い、それより毎年干上がる根尾川に水を流してほしい。	流水の正常の機能の維持については、それぞれの河川において動植物の生息・生育等に必要河川環境を改善するため必要な流量を検討しています。なお、木曾川水系連絡導水路については、その時々々の渇水状況を踏まえ、有効に運用したいと考えています。	第3章第1節第2項 2(1)② 木曾川水系 連絡導水路の建設
第1回ふれあい懇談会	安八会場	河川の利用・利水は安八町は揖斐川に依存していますが、最近、徳山ダムにより利用可能な水資源を利用するために揖斐川ー木曾川ー長良川へ連絡する導水施設の実施計画があるようですが、報道を。	これまでの検討結果について、木曾川上流河川事務所のホームページに掲載しております。今後も引き続き、情報公開に努めます。	第3章第1節第2項 2(1)② 木曾川水系 連絡導水路の建設
第3回ふれあい懇談会	岐阜会場	徳山ダムの水をもっと地元に戻元してほしい。	揖斐川では万石地点において1/10規模の渇水時に20m ³ /s、異常渇水時(平成6年渇水相当)にも20m ³ /sの流量を確保するとともに、水利用の合理化を促進し、維持流量の一部を回復する目標としており、揖斐川において徳山ダムにより一定の流量を確保した上で導水する計画としています。	第3章第1節第2項 2(1)② 木曾川水系 連絡導水路の建設
第3回ふれあい懇談会	岐阜会場	徳山ダムの水を根尾川、粕川にも流し、流域で利用できるようにしてほしい。	揖斐川では万石地点において1/10規模の渇水時に20m ³ /s、異常渇水時(平成6年渇水相当)にも20m ³ /sの流量を確保するとともに、水利用の合理化を促進し、維持流量の一部を回復する目標としており、揖斐川において徳山ダムにより一定の流量を確保した上で導水する計画としています。なお、木曾川水系連絡導水路については、その時々々の渇水状況を踏まえ、有効に運用したいと考えていますが、導水路との位置関係から粕川については導水することはできません。	第3章第1節第2項 2(1)② 木曾川水系 連絡導水路の建設
第3回ふれあい懇談会	岐阜会場	890億の予算が必要な導水事業をあわてて位置付けしようとしている整備計画には反対である。	木曾川水系連絡導水路については、木曾川水系河川整備計画の策定手続きにおいて流域委員会やふれあい懇談会の中で説明、議論を重ねているところです。	第3章第1節第2項 2(1)② 木曾川水系 連絡導水路の建設

「多くのご意見をいただきましたので、現時点では河川管理者の考え方の記述に精粗がありますことをご容赦願います。」

意見をいただいた方法	開催場所	いただいたご意見	いただいたご意見に対する考え方	記載箇所
第2回ふれあい懇談会	美濃加茂会場	導水が必要な明確な根拠がもっとほしい。	木曽川上流河川事務所のホームページに掲載しております木曽川水系流域委員会の資料をご参考下さい。なお、さらに理解が得られるよう引き続き努めてまいります。	第3章第1節第2項 2(1)② 木曽川水系 連絡導水路の建設
第2回ふれあい懇談会	岐阜会場	木曽川水系連絡導水路と長良川河口堰の運用(水利用)を整理されたい。	徳山ダム(木曽川水系連絡導水路)については、木曽川水系における水資源開発基本計画において、長良川河口堰等とともに平成27年度の水需要の見直しに対して安定的な水供給を行うために必要な施設として位置づけられています。	第3章第1節第2項 2(1)② 木曽川水系 連絡導水路の建設
第2回ふれあい懇談会	岐阜会場	根尾川についても連絡導水路の整備を図り、維持流量の確保を行って欲しい。	流水の正常の機能の維持については、それぞれの河川において動植物の生息・生育等に必要な河川環境を改善するため必要な流量を検討しています。なお、木曽川水系連絡導水路については、その時々々の渇水状況を踏まえ、有効に運用したいと考えています。	第3章第1節第2項 2(1)② 木曽川水系 連絡導水路の建設
第2回ふれあい懇談会	岐阜会場	徳山ダム貯留水の配分として、木曽川への大量に計画されている様だが、足下である揖斐川を最優先と出来る様マニュアル内でもしっかり調整してほしい。	揖斐川では、万石地点において1/10規模の渇水時に20m ³ /s、異常渇水時(平成6年渇水相当)にも20m ³ /sの流量を確保するとともに、水利用の合理化を促進し、維持流量の一部を回復する目標としており、揖斐川においても一定の流量を確保してまいります。	第3章第1節第2項 2(1)② 木曽川水系 連絡導水路の建設
第2回ふれあい懇談会	大垣会場	・揖斐川流域住民として、長良川、木曽川の異常渇水時に、木曽川水系連絡導水路をフル活用(16+4=20 ³ /s)されることは十分に理解しているが、異常渇水に至るかどうかわからない早い段階から導水されることは簡単に同意できないという思いである。 ・水系連絡導水路の運用の基本は、揖斐川流域の関心事であるので、できるだけ早い段階で説明していただきたい。	揖斐川では、万石地点において1/10規模の渇水時に20m ³ /s、異常渇水時(平成6年渇水相当)にも20m ³ /sの流量を確保するとともに、水利用の合理化を促進し、維持流量の一部を回復する目標としており、揖斐川において徳山ダムにより一定の流量を確保した上で導水する計画としています。 木曽川水系連絡導水路については、木曽川水系における水資源開発施設を効率的に運用することで、利水者が等しく恩恵を受けられる運用方法について、関係機関と調整してまいります。	第3章第1節第2項 2(1)② 木曽川水系 連絡導水路の建設
第2回ふれあい懇談会	大垣会場	・木曽川水系連絡導水路の完成後の運用については、木曽川、長良川が異常渇水で困ると想定されるときに、徳山ダムの貯留水を導水されることは、当初目的であり承知しているが、木曽川ダムの貯留水を温存しておいて、揖斐川の水を先行的に使うような運用がされるとしたら納得できないというのが、地元の意見です。 ・今回提示された案では、木曽川ダムの不特定容量が1/2となった時点から16 ³ /sを導水するということが、この運用ですと、最近10年及び平成6年渇水では、年間総導水量が何万トンになるか等について、岐阜県や揖斐川流域の市町などに説明頂くのが良いと思います。	揖斐川では、万石地点において1/10規模の渇水時に20m ³ /s、異常渇水時(平成6年渇水相当)にも20m ³ /sの流量を確保するとともに、水利用の合理化を促進し、維持流量の一部を回復する目標としており、揖斐川において徳山ダムにより一定の流量を確保した上で導水する計画としています。 木曽川水系連絡導水路については、木曽川水系における水資源開発施設を効率的に運用することで、利水者が等しく恩恵を受けられる運用方法について、関係機関と調整してまいります。	第3章第1節第2項 2(1)② 木曽川水系 連絡導水路の建設
第2回ふれあい懇談会	名古屋会場	導水路事業や新丸山ダム事業については正常流量や環境についても経済調査を行って施設の妥当性を評価して欲しい。	正常流量や環境についての経済評価については、便益を金額として算出することが困難なため、同等の効用を得るために代替する施設を建設した場合の費用を算出し、当該便益としています。	第3章第1節第2項 2(1)② 木曽川水系 連絡導水路の建設
第2回ふれあい懇談会	名古屋会場	導水路計画は農業用水の転換とかの対策というのは検討された上でのプロジェクトなのか。	水利権については更新時において適正な見直しを行い、水利用の合理化を進めています。また、渇水時には取水制限の要請やダム群の総合運用及び発電への応援要請等の渇水対策を行っています。木曽川水系連絡導水路はこのような対策を行った上で、なお、必要となります。	第3章第1節第2項 2(1)② 木曽川水系 連絡導水路の建設
第2回ふれあい懇談会	桑名会場	木曽川導水路については、木曽川、長良川に水を流さず、揖斐川に水を流すべきではないか。また、愛知県、岐阜県については、長良川から水をとれば、上流から取る必要はないのでは、ないのか。	揖斐川では、万石地点において1/10規模の渇水時に20m ³ /s、異常渇水時(平成6年渇水相当)にも20m ³ /sの流量を確保するとともに、水利用の合理化を促進し、維持流量の一部を回復する目標としており、揖斐川において徳山ダムにより一定の流量を確保した上で導水する計画としています。 また、木曽川水系連絡導水路のルートは、河川環境の改善効果や利水補給効果及び経済性等を総合的に検討し、上流施設の放水口は木曽川の坂祝地区を計画しています。	第3章第1節第2項 2(1)② 木曽川水系 連絡導水路の建設
第2回ふれあい懇談会	岐阜会場	導水事業は ・木曽川へは犬山でなく、馬飼に入れたほうが効率的でないか	木曽川水系連絡導水路のルートは、河川環境の改善効果や利水補給効果及び経済性等を総合的に検討し、上流施設の放水口は木曽川の坂祝地区を計画しています。	第3章第1節第2項 2(1)② 木曽川水系 連絡導水路の建設

「多くのご意見をいただきましたので、現時点では河川管理者の考え方の記述に精粗がありますことをご容赦願います。」

意見をいただいた方法	開催場所	いただいたご意見	いただいたご意見に対する考え方	記載箇所
アンケート	-	知多半島の水道源を元の安全な木曾川に戻して下さい。徳山ダムの導水管計画は中止して下さい。	知多半島には、現在、長良川河口堰から、木曾川の渇水の影響を受けることなく、安定的に供給されて、地域発展に欠かせない水となっています。また、徳山ダムは治水・利水・河川環境の保持のため必要なダムであり、木曾川連絡導水路は、河川環境の改善、異常渇水時の緊急水の補給、都市用水の必要な施設です。	第3章第1節第2項2(1)② 木曾川水系連絡導水路の建設
ホームページ	-	第2項 河川水の適正な利用 ページ 3-24 に関してです 4 異常渇水対策の3行目 「また、異常渇水による甚大な渇水被害の最小限化を図るため、既存の水資源開発施設や木曾川水系連絡導水路等を最大限に活用するため、水系全体の総合運用について、関係機関と調整し、その実施に努める。」と、記載されているが、上記文中の「木曾川水系連絡導水路等」は削除されるべきです。 (理由):(一部略:詳細別途) 「最大限活用する」こととは、木曾川の既存ダムの貯水量は温存しつつ、渇水初期の段階から「木曾川が異常渇水になる恐れあり」との名目で、常時、揖斐川の水を木曾川へ導水されること(いわゆる揖斐川から木曾川への不特定補給)になってしまうと想定される点 現徳山ダム計画の「渇水対策容量40,000千m3」を、木曾川の異常渇水時に活用することには異論はありませんが、あくまで導水補給の開始は、木曾川の既設ダムの枯渇の恐れが強まった異常渇水時だということが、渇水対策容量計画の原点であると思います。 また、木曾川水系連絡導水路は、年間総量を少しでも多く流すことが有効活用ではなく、異常渇水には限られた水を、節水と導水を合わせた地域間協力で乗り切ることだと考えます。	揖斐川では、万石地点において1/10規模の渇水時に20m3/s、異常渇水時(平成6年渇水相当)にも20m3/sの流量を確保するとともに、水利用の合理化を促進し、維持流量の一部を回復する目標としており、揖斐川において徳山ダムにより一定の流量を確保した上で導水する計画としています。 異常渇水時における木曾川の河川環境の改善のための導水は、異常渇水になることが想定される木曾川上流ダムの貯水量が半分以下となる時点で開始し、その総量は徳山ダムに確保した渇水対策容量の40,000千m3となります。これより、懸念されている「常時、揖斐川の水を木曾川に導水されること」にはなりません。	第3章第1節第2項2(1)② 木曾川水系連絡導水路の建設
第3回ふれあい懇談会	岐阜会場	会場の質問の中で揖斐川の水を長良川に導水するが、水温の高い揖斐川の水は好ましくないとの意見があった。渇水時及び異常渇水時の対応であり、水温より水量の方が大切では?ただ影響については河川管理者としても専門家の意見を聞き熟知しておくことが大切。また長良川の導水よりも揖斐川水系の根尾川へ導水すべきとの意見もあったが、根尾川は古くから渇水時には表流水が沈没し砂漠化しており根尾川の河川特性とも言える。河川生物の観点からは表流水が流れていた方が好ましいが生物の本能として表流水のある箇所や支川に避難するだろうと思われるが、支川の維持流量については他所も明確に定めていないし維持流量も検討していない。	貴重なご意見ありがとうございます。 導水路に伴う環境への影響等に関する調査検討については、「木曾川水系連絡導水路環境検討会」において学識者の指導助言を得ながら実施していきます。	第3章第1節第2項2(1)② 木曾川水系連絡導水路の建設
第3回ふれあい懇談会	岐阜会場	結論として 揖斐川の水(渇水時)1,000万m3を根尾川上流部(大阪住友セメント工場上流部放水し長良川には放水しない、もし予力水があれば粕川(市役所前瑞石寺導水路上流部)に放水を望む 結果、根尾川、粕川に一年を通し生物が生息できる環境が復元でき私達が生きるために安定した農業生産が出来、中、下流部における水の活用が安定される。	木曾川水系連絡導水路については、その時々々の渇水状況を踏まえ、有効に運用したいと考えていますが、導水路との位置関係から粕川については導水することはできません。	第3章第1節第2項2(1)② 木曾川水系連絡導水路の建設
第3回ふれあい懇談会	岐阜会場	(1) 異常渇水時の環境改善 (7) 長良川は上、下水及び農業用水における渇水時間問題は平成11年～現在迄は問題がなかった(資料による)このため揖斐川の導水は必要ない。	流水の正常の機能の維持については、それぞれの河川において動植物の生息・生育等に必要河川環境を改善するため必要な流量を検討しています。なお、木曾川水系連絡導水路については、その時々々の渇水状況を踏まえ、有効に運用したいと考えています。	第3章第1節第2項2(1)② 木曾川水系連絡導水路の建設

「多くのご意見をいただきましたので、現時点では河川管理者の考え方の記述に精粗がありますことをご容赦願います。」

意見をいただいた方法	開催場所	いただいたご意見	いただいたご意見に対する考え方	記載箇所
第3回ふれあい懇談会	一宮会場	木曾川導水によって異常渇水対策は良くなると思う。	木曾川連絡導水路は、渇水の被害を最小化できる信頼性の高い危機管理対策と考えております。	第3章第1節第2項2(1)② 木曾川水系連絡導水路の建設
第3回ふれあい懇談会	岐阜会場	根尾川の水を1年間流れるようにしてほしい。	木曾川水系連絡導水路は根尾川を横過しますので、連絡導水路の活用について検討してまいります。	第3章第1節第2項2(1)② 木曾川水系連絡導水路の建設
第2回ふれあい懇談会	岐阜会場	三川の川の面積からいって水利用のバランスがとれているのか。	面積だけでなく、他の自然条件、社会条件も考慮して検討して行く必要があると考えています。	第3章第1節第2項2(1)② 木曾川水系連絡導水路の建設
第2回ふれあい懇談会	名古屋会場	木曾川水系導水路の建設は不要なダムを建設したための理由づけではないのかと疑ってしまう。ダムにしか頼れない川づくりをするしか能がないのだろうか。盤石な建造物は将来に渡って禍根を残さないか心配になる。	徳山ダムは治水・利水・河川環境の保持のため必要なダムであり、木曾川連絡導水路は、河川環境の改善、異常渇水時の緊急水の補給、都市用水の必要な施設です。	第3章第1節第2項2(1)② 木曾川水系連絡導水路の建設
アンケート	-	徳山からの導水はいらない。	徳山ダムは治水・利水・河川環境の保持のため必要なダムであり、木曾川連絡導水路は、河川環境の改善、異常渇水時の緊急水の補給、都市用水の必要な施設です。	第3章第1節第2項2(1)② 木曾川水系連絡導水路の建設
アンケート	-	徳山ダムは、ムダ使いです。借金のつけは私たちに回ってきます。このダムにパイプラインを引く事業はやめて下さい。2つの分割案もとうてい納得できません。9月5日に現地に行きましたが、その広大さ・被害の大きさ・ムダ使いに心が痛みました。	徳山ダムは治水・利水・河川環境の保持のため必要なダムであり、木曾川連絡導水路は、河川環境の改善、異常渇水時の緊急水の補給、都市用水の必要な施設です。	第3章第1節第2項2(1)② 木曾川水系連絡導水路の建設
第2回ふれあい懇談会	大垣会場	木曾川導水について質問がでたが、開発水量については、水利権による配分で問題ないが、渇水対策容量については、河川管理者の判断で配分されたと思う。 (揖斐川13,000千?、木曾川40,000千? 計53,000千?) H6年渇水のように三川同時に渇水した場合の優先順位、配分量についての説明も必要。(渇水対策容量決定根拠)	木曾川水系連絡導水路の完成後の運用については、渇水被害の最小限化を図るため、既存水資源開発施設の有効利用と併せ関係機関と調整してまいります。また、情報公開に努めてまいります。	第3章第1節第2項2(1)② 木曾川水系連絡導水路の建設
第2回ふれあい懇談会	大垣会場	異常渇水の時に徳山導水で水を持っていくのは理解できるが、他の川の水を温存しておいて先行して水を持っていくというのは理解できない。効率的な運用と言われるが優先順位はどの様になっているのか。地元としては揖斐川に水を戻して欲しい。	揖斐川では、万石地点において1/10規模の渇水時に20m ³ /s、異常渇水時(平成6年渇水相当)にも20m ³ /sの流量を確保するとともに、水利用の合理化を促進し、維持流量の一部を回復する目標としており、揖斐川において徳山ダムにより一定の流量を確保した上で導水する計画としています。	第3章第1節第2項2(1)② 木曾川水系連絡導水路の建設
第1回ふれあい懇談会	本巢会場	やはり渇水対策だと考えます。ほとんど底をついた牧尾ダムや岩屋ダムがテレビ放映されるごとに「大変だな」と思います。揖斐川上流に徳山ダムが完成し、試験的に貯水する所まできたのは心強い事です。7月に私もダム底になる場所にたつて、その大きさに感動したものであります。その徳山ダムの水を木曾川に地下水路(河川?用水路?)を建設して放水しようとする計画があると聞きます。大変結構なことですが、そのルート上に地下水を利用して生活をしている住人もあり、地下水系(脈)が乱れて、それこそ渇水にならないように願いたいものです。	貴重なご意見ありがとうございます。 導水路に伴う環境への影響等に関する調査検討については、「木曾川水系連絡導水路環境検討会」において学識者の指導助言を得ながら実施していきます。	第3章第1節第2項2(1)② 木曾川水系連絡導水路の建設
第2回ふれあい懇談会	岐阜会場	徳山ダムからの導水は、渇水対策のみであるが、洪水に効果のあるトンネルのようなものを考えてはどうか。	木曾川水系連絡導水路の通水能力は最大20m ³ /sであり、洪水時の放水路としての能力は有してしません。	第3章第1節第2項2(1)② 木曾川水系連絡導水路の建設

「多くのご意見をいただきましたので、現時点では河川管理者の考え方の記述に精粗がありますことをご容赦願います。」

意見をいただいた方法	開催場所	いただいたご意見	いただいたご意見に対する考え方	記載箇所
第2回ふれあい懇談会	名古屋会場	導水路を実際につくった後に、これを管理、維持していく費用というのは毎年どれくらいかかるのか。	木曽川連絡導水路につきましては、記者投げ込みによるお知らせや木曽川上流河川事務所等のHPでも公開しているところです。	第3章第1節第2項2(1)② 木曽川水系連絡導水路の建設
第4回ふれあい懇談会	岐阜会場	徳山ダムで長時間滞留した水が横山ダム、西平ダムと溜まりながら来たら、藻類が多く発生していると思われる。この導水によって長良川が良くなると思われれないので、岐阜市民として止めて欲しい。長良川の水位が低いとき(川が疲弊しているとき)に藻類の多い水を流すのは止めて欲しい。	徳山ダムは貧栄養と予測されており、富栄養化しないと考えられます。なお、導水は、導水先の河川環境との関係に配慮して行います。連絡導水路の事業実施にあたっては、学識者のご意見を聞いて、環境への影響の軽減に努めます。	第3章第1節第2項2(1)② 木曽川水系連絡導水路の建設
第4回ふれあい懇談会	岐阜会場	導水路を予算措置して実施したいのが、明らかである。整備計画策定において、多摩川方式でも2年4カ月掛かっているのに、お尻を区切って事業を位置づけるようなやり方は多摩川方式とも違う。河川法改正の趣旨を踏みにじるようなやり方に問題がある。導水路事業について、何のためにどういってお金を使うのか非常にわかりにくく、治水特別会計から860億円*65%を河口部のヤマトシジミが大切だからということを使う緊急性の意味が分からない。渇水時の地盤沈下を規制できないから、導水路事業に890億*65%を使うのは問題の転倒ではないか。床上浸水を選べるべきで、堤防強化等そちらに予算を回すべきなのに、それよりもヤマトシジミのための渇水対策を緊急に位置づけ、水機構事業として実施することが先に決まっているような木曽川水系河川整備計画のあり方について、強い異議を申し上げたい。	河川の整備は、治水・利水・環境が調和されながら達成されるよう、総合的な視点で実施することを考えており、目的の達成のために必要な治水事業も連絡導水路も整備計画に位置づけることで考えています。	第3章第1節第2項2(1)② 木曽川水系連絡導水路の建設
第4回ふれあい懇談会	岐阜会場	外来種について、揖斐川から長良川に導水路を通過して入ってくることで外来種が拡散するのではないか。	連絡導水路の事業実施にあたっては、学識者のご意見を聞いて、環境への影響の軽減に努めます。	第3章第1節第2項2(1)② 木曽川水系連絡導水路の建設
第4回ふれあい懇談会	岐阜会場	上水、下水、農業用水に何の支障もない長良川に導水するのは信じられない。下流部の人は誰も水に困っていない。生物の生息環境のためにも根尾川に少しでも水を送っていただきたい。長良川に揖斐川の水はいりません。	徳山ダムの渇水対策容量の運用に当たっては、異常渇水時において長良川下流部や根尾川等の支川で河川環境が著しく悪化した場合等、状況に応じてそれら河川へも緊急水を補給します。	第3章第1節第2項2(1)② 木曽川水系連絡導水路の建設
第4回ふれあい懇談会	岐阜会場	連絡導水路について (1)必要性—今一つ判らない!!必要性を認めない。(2)環境—長良川は3川の〇〇〇(資料)を見ても悪くなる。中継は悪化が明白であり、やるべきではないと思われる。(3)木曽三川はそれぞれ特徴があり、この特性を破壊するようなことをするべきではないと思う。	連絡導水路の事業実施にあたっては、学識者のご意見を聞いて、環境への影響の軽減に努めます。	第3章第1節第2項2(1)② 木曽川水系連絡導水路の建設
第4回ふれあい懇談会	岐阜会場	導水管 計画の策定が行われ実施のとき地域関係諸団体、市町の連携した承があつての仕事。過去の話し合いに關係のもの呼びかけが必要。勝手に根尾川を横断、放流するな。根尾川上流部、発電所の水管理、水利用を検討すべき。	事業の実施にあつては、関係機関との調整や必要な手続きを実施した上で行います。異常渇水に長良川下流部や根尾川等の支川で河川環境が著しく悪化した場合には状況に応じて、木曽川水系連絡導水路を最大限に活用し、それら河川へも緊急水を補給します。環境に関して、連絡導水路の事業実施にあたっては、学識者のご意見を聞いて、環境への影響の軽減に努めます。既存施設の有効利用及び関係機関と連携した水利用の合理化についても努めて参ります。	第3章第1節第2項2(1)② 木曽川水系連絡導水路の建設
第4回ふれあい懇談会	岐阜会場	導水路について住民から「止めてほしい」と意見がありました。私も必要性が理解できませんので大金を使ってする必要がないように思います。あればどうしても必要である理由を教えてください。各務原市も必要でないと思います。	平成6年には、木曽川の本川が干上がるとともに、木曽川上流のダム群が枯渇し、社会経済活動が麻痺しました。このため、利水導水と緊急水の導水は必要と考えています。	第3章第1節第2項2(1)② 木曽川水系連絡導水路の建設
第4回ふれあい懇談会	岐阜会場	根尾川が一年中清い流れが見られる川になるようご努力をのぞみます。	徳山ダムの渇水対策容量の運用に当たっては、異常渇水時において長良川下流部や根尾川等の支川で河川環境が著しく悪化した場合等、状況に応じてそれら河川へも緊急水を補給します。	第3章第1節第2項2(1)② 木曽川水系連絡導水路の建設

「多くのご意見をいただきましたので、現時点では河川管理者の考え方の記述に精粗がありますことをご容赦願います。」

意見をいただいた方法	開催場所	いただいたご意見	いただいたご意見に対する考え方	記載箇所
アンケート	—	私共の居住して居ります所は岐阜市北部で産廃で問題の椿洞でございます。現在戸数280戸(内農業者35～6戸)で35～6戸が平均5.4反程の田畑を耕作いたして居ります。御木曾川上流河川事務所の河川整備計画案について水は人間の生命であり日本一と云ふ大きい徳山ダムが完成し私共が考えもつかなかった岐阜県を地下30m下を横断し木曾川まで送水し将来起こり得るであらう異常気象は我々農家にとっては全く想像もつかぬ事が起こり得ると確信いたします。それを見越しての30年先の計画は災害発生を抑止、灌漑治水、河川環境並にその保全等々について地上の生物が生きてゆくについて非常に大切であり有益と考えます。強力にお勧め下さる事をお願い致します。	貴重なご意見ありがとうございます。 木曾川水系連絡導水路については、その時々々の湧水状況を踏まえ、有効に運用したいと考えています。	第3章第1節第2項2(1)② 木曾川水系連絡導水路の建設
アンケート	—	私共の椿洞は西に伊自良川、東に戸羽川が流れ地図上では水利に恵まれて居るように思われますが両河川共全く関係なく水源と云えば天水と余り大きくない山奥の深くない湧水と岐阜市畜産センターの北にあります農業用貯水池がありますが余り貯水量がなく田植時3日も取水すれば干上る状態は大した期待は出来ず毎年悩みの種でございます。私共のすぐ南東にあります打越地域には中濃用水が来て居りますが打越と椿洞との土地の段差がありポンプアップは無理な状況と思われれます。過去に於て私共の部落内の数ヶ所にて井戸の試掘をいたした事もありますが良い水脈はない状態で毎年ながら五月になると田の代掻きの水には難儀をして居ります。誠に勝手に申し上げます訳でございますが御計画の導水管が椿洞地内を通るとのようですが何とか分水していただくようご無理を申し上げますがお願い致します。	貴重なご意見ありがとうございます。 木曾川水系連絡導水路については、その時々々の湧水状況を踏まえ、有効に運用したいと考えています。 施設計画については今後調査設計してまいります。	第3章第1節第2項2(1)② 木曾川水系連絡導水路の建設
アンケート	—	前述致しましたが椿洞の水源ですが浅い谷川よりの湧水が私共農業を営む者の命です。素人の取越苦勞かと思いますが若し導水管が地下を通る場合水脈が異常を来し湧水に差支えが生じる心配はないものかお教え下されば幸かと存じます。	貴重なご意見ありがとうございます。 導水路に伴う環境への影響等に関する調査検討については、「木曾川水系連絡導水路環境検討会」において学識者の指導助言を得ながら実施していきます。 また、十分な地質調査を行い、ご意見も参考にしながら導水路の設計を行ってまいります。	第3章第1節第2項2(1)② 木曾川水系連絡導水路の建設
第4回ふれあい懇談会	一宮会場	木曾川水系における河川法第16条の2の運用 河川法第16条の2を設けた(流域住民の声を計画に反映させようとした)趣旨を著しく蹂躪するものです。 【別紙意見書参照】	住民のみならず、行政からご意見をお聴きする方法は様々ありますが、木曾川水系では住民の皆様からはふれあい懇談会やアンケート、ホームページ等で、行政からは木曾三川整備計画策定説明会等でお聞きしております。 特に住民のみならずからはふれあい懇談会の場で多くのご意見をみなさまから直接いただくことを大切にしていきたいと考えております。	—
第4回ふれあい懇談会	一宮会場	「木曾川水系連絡導水路」事業は不要な金喰い虫 【別紙意見書参照】	河川の整備は、治水・利水・環境が調和されながら達成されるよう、総合的な視点で実施することを考えており、目的の達成のために必要な治水事業も連絡導水路も整備計画に位置づけることで考えています。	—
第4回ふれあい懇談会	一宮会場	「財政的制約」で苦しむ水害常襲地帯/脆弱な堤防 水害常襲地帯への対策は不十分です。しかし、大洪水に対処する施策は遅々として進んでいません。「既往最大の異常湧水時にヤマトシジミが斃死しないように」治水予算から890億円×65%を投じることでしょうか？ 【別紙意見書参照】	河川の整備は、治水・利水・環境が調和されながら達成されるよう、総合的な視点で実施することを考えており、目的の達成のために必要な治水事業も連絡導水路も整備計画に位置づけることで考えています。	—
第9回流域委員会	—	理解されていない・できない木曾川水系連絡導水路事業 【別紙意見書参照】	連絡導水路については内容が専門的かつ広域的であり、専門家の先生方で構成される流域委員会で集中審議中です。 流域委員会の審議内容もインターネットで公表しているのをご覧いただき、ご意見、ご質問があれば頂戴したいと考えております。	—
第9回流域委員会	—	1997年河川法原点・木曾川水系 「来年度予算に間に合うように木曾川水系連絡導水路を河川整備計画を位置づけることがすでに決まっている」ような「木曾川水系河川整備計画策定の進め方」であってはなりません。 【別紙意見書参照】	平成18年度より、学識経験者、行政、住民のみならずからご意見を頂いており、きちんと丁寧に進めております。今後も引き続きご意見を伺いながら進めていくこととしております。	—

「多くのご意見をいただきましたので、現時点では河川管理者の考え方の記述に精粗がありますことをご容赦願います。」

意見をいただいた方法	開催場所	いただいたご意見	いただいたご意見に対する考え方	記載箇所
アンケート	-	水利用と環境保全を両立させていただきたい。	動植物の生息・生育等の河川環境を改善するため、維持流量の確保に努めてまいりたいと考えております。	第3章第1節第2項 2(1) 河川環境の改善
第1回ふれあい懇談会	北方会場	徳山ダムとの関係もあるが、水をうまく配分するようにして欲しい。天王川に水を流したいが、なかなか了解してもらえない。	今後、地域要望も踏まえ、検討してまいります。	第3章第1節第2項 1 河川水の適正な利用
第1回ふれあい懇談会	揖斐川会場	利水。揖斐川によって私たち地元はもちろん、他地域の人々も一年を通して多大な恩恵を受けていると思います。	引き続き、河川水の適正な利用に努めて参ります。	第3章第1節第2項 1 河川水の適正な利用
第1回ふれあい懇談会	本巢会場	こまごまとした施設より、常に川に水が流れ、堤防は整備管理され、それが常である状態で人が集まる。工業用水、農業用水を木曾三川間で調整できる利水も必要と思う。	水系全体の総合運用について、関係機関と調整し、その実施に努めていきたいと考えております。	第3章第1節第2項 1 河川水の適正な利用
第1回ふれあい懇談会	本巢会場	利水 上水工業農業用水は現在以上の利用は当面考えられてない。	木曾川水系水資源開発基本計画(フルプラン)では、需要と供給のバランスがとれております。	第3章第1節第2項 1 河川水の適正な利用
第1回ふれあい懇談会	木曾岬会場	木曾川の余っている工水を上水にふりわけてほしい。	木曾川水系水資源開発基本計画(フルプラン)では、需要と供給のバランスがとれております。	第3章第1節第2項 1 河川水の適正な利用
第1回ふれあい懇談会	多度会場	今は農業用に揖斐川の水を利用しているが、徳山ダム完成後も利用できるのか。	利用できます。	第3章第1節第2項 1 河川水の適正な利用
第2回ふれあい懇談会	一宮会場	水利用については、近い将来での利活用技法の進展を考慮すると過大の目標設定ということになると思われる。一方で、少子高齢化が進むという社会動向も利いて来るだろう。併せて中水の利活用という点からも前提条件の変化は大きいと言えそうである。	木曾川水系水資源開発基本計画(フルプラン)では、需要と供給のバランスがとれております。	第3章第1節第2項 1 河川水の適正な利用
第2回ふれあい懇談会	名古屋会場	農業用水が常に水路をとうとうと流れているように思う。水利用の合理化を流域住民に分かるようにすすめていただきたい。(耕作放棄地、都市化等による受益地の減少など明らかに。)	農業用水水利権については、受益面積や営農形態等の変化を踏まえて水利権の見直しを適正に行うこととしており、河川水の適正な利用に努めて参ります。	第3章第1節第2項 1 河川水の適正な利用
第2回ふれあい懇談会	一宮会場	笠松町では、みなと公園のあたりなど、川底が向きだしになっている。木曾川橋よりも下流は伏流水が多く、水量が多くなっているが、笠松はひどい状況である。徳山ダムから導水するというが、10年先であり待ってられない。木曾川の利水はほとんどが愛知県であり、犬山でも3箇所取って愛知県で利用されている。このような状況の中、農業用水については、水田が減っているが取水量は変わっていないので、ここを何とかすれば多少は水量が確保できるのではないかと。	河川水の適正な利用を図るため、水利用の合理化、適正な水利権許認可に努めてまいります。	第3章第1節第2項 1 河川水の適正な利用
第1回ふれあい懇談会	大野会場	藪川橋付近の川床に水が流れていない時期が多くあり改善策は無いですか。	木曾川水系連絡導水路は根尾川を横過しますので、連絡導水路の活用について検討してまいります。	第3章第1節第2項 1 河川水の適正な利用
第1回ふれあい懇談会	神戸・池田会場(共同開催)	揖斐川沿川の井戸が夏と正月には汲み上げられなくなる場合がある。河川水量を一定にしていつでも水が使えるようにしてほしい。	揖斐川では、万石地点において1/10 規模の渇水時に20m ³ /s、異常渇水時(平成6年渇水相当)にも20m ⁵ /s の流量を確保するとともに、水利用の合理化を促進し、維持流量の一部を回復することを目標としております。	第3章第1節第2項 1 河川水の適正な利用
第1回ふれあい懇談会	揖斐川会場	最近揖斐川が農業用水の取水から川が枯渇するようになりたびたび干上がるようにになりました。取水調節をして揖斐川が干上がらないように願いたい。	揖斐川では、万石地点において1/10 規模の渇水時に20m ³ /s、異常渇水時(平成6年渇水相当)にも20m ⁴ /s の流量を確保するとともに、水利用の合理化を促進し、維持流量の一部を回復することを目標としております。	第3章第1節第2項 1 河川水の適正な利用

「多くのご意見をいただきましたので、現時点では河川管理者の考え方の記述に精粗がありますことをご容赦願います。」

意見をいただいた方法	開催場所	いただいたご意見	いただいたご意見に対する考え方	記載箇所
第1回ふれあい懇談会	美濃加茂・坂祝会場(共同開催)	美濃加茂地先の流量(約)250トン 馬飼頭首工 放水50トン? (流れる水が減れば河川規模の縮小と同じ。遡上する魚の減少は当然起きる。) この様な取水量をどこで、誰がよしとして決めている?	農業用水利権については、受益面積や営農形態等の変化を踏まえて水利権の見直しを適正に行うこととしており、河川水の適正な利用に努めて参ります。	第3章第1節第2項 1 河川水の適正な利用
第2回ふれあい懇談会	美濃加茂会場	新丸山ダムから御嵩町に取水し、再び木曾川に水を戻す利用を配慮願いたい。「水利権」の見直しが必要と思います。	ご要望については、御嵩町に伝えるとともに、河川水の適正な利用に努めて参ります。	第3章第1節第2項 1 河川水の適正な利用
第1回ふれあい懇談会	輪之内会場	輪之内町は揖斐川の水利権しかないと聞いているが、長良川からも水利取入ができるかとい。	いただいたご意見は、輪之内町に伝えてあります。引き続き、河川水の適正な利用に努めます。	第3章第1節第2項 1 河川水の適正な利用
第1回ふれあい懇談会	犬山会場	犬山頭首工を造ってから40年がたち工業用水の取り入れについては愛知県の工業には、とても良い治水事業である。	引き続き、河川水の適正な利用に努めて参ります。	第3章第1節第2項 1 河川水の適正な利用
第1回ふれあい懇談会	可児会場	渇水時、可児市民は豊かな水量が流れる木曾川をながめる、又、水利権の分配を再考してもらいたい。	可児市の水道は、岐阜県東部上水道用水供給事業として木曾川から取水して給水されております。引き続き、河川水の適正な利用に努めて参ります。	第3章第1節第2項 1 河川水の適正な利用
第1回ふれあい懇談会	岐阜会場	利水は現在あまり気味。利用についてはよくわかわない。	木曾川水系水資源基本計画(フルプラン)では、需要と供給のバランスしており、木曾川水系においては水余りは生じておりませんのでご理解をお願いします。	第3章第1節第2項 1 河川水の適正な利用
第1回ふれあい懇談会	輪之内会場	利水に関しては木曾三川は水量が豊富なので地下水に頼るばかりでなく農業用水、工業用水に積極的に利用すると良いと思います。	今後の河川行政の参考とさせていただきます、河川水の適正な利用に努めて参ります。	第3章第1節第2項 1 河川水の適正な利用
第1回ふれあい懇談会	可児会場	水道水に利用の場合、後発の都市は自己開発の水を利用することになる。自然流水は事業にすべきである。	歴史的な経過にも十分に配慮して行くべきことであると考えております。	第3章第1節第2項 1 河川水の適正な利用
第1回ふれあい懇談会	可児会場	Q7に関連するが、水利権のからみあい水道の利用充分でない。	木曾川水系水資源開発基本計画(フルプラン)では、需要と供給のバランスがとれております。	第3章第1節第2項 1 河川水の適正な利用
第1回ふれあい懇談会	犬山会場	木曾三川はそれぞれ特徴があり、他の都市の利水について大いに参考にされるものと思われます。長短期の利水計画についても注目されていると思います。利水は地理、知勢、生活様式、文化文明を基本的に支えるものであると考えねばなりません。	利水は社会の骨格となすものであり、今後も安定供給に向け努めてまいります。	第3章第1節第2項 1 河川水の適正な利用
第1回ふれあい懇談会	犬山会場	流域に必要な時に必要なだけの水量を確保出来る利水計画をお願いします。	木曾川水系水資源開発基本計画(フルプラン)では、需要と供給のバランスがとれております。	第3章第1節第2項 1 河川水の適正な利用
第2回ふれあい懇談会	名古屋会場	流水管理はとても大切な事だと思う。管理すると言うことは必要に応じて止めたりして流量を制御できる事でもあり是非実現してほしい。特に今は農工水の水余りをとらえて言々される人も居るがではその水を環境水や親水目的に使えるかと言うとそうではない。だったら導水路でもって流量増を図るは当然の事と思います。	引き続き、河川水の適正な利用に努めて参ります。	第3章第1節第2項 1 河川水の適正な利用
第1回ふれあい懇談会	輪之内会場	1.河川をきれいにする ゴミが目立った 2.川の流れを良くする	河川整備計画原案(案)では、川の流れを良くするため、既存施設の有効利用及び関係機関と連携した水利用の合理化を促進すること等により、河川水の適正な利用に努めてまいります。ゴミ対策等については、河川の清潔の維持として右記載箇所に記載のとおり考えています。	第3章第1節第2項 1 河川水の適正な利用

「多くのご意見をいただきましたので、現時点では河川管理者の考え方の記述に精粗がありますことをご容赦願います。」

意見をいただいた方法	開催場所	いただいたご意見	いただいたご意見に対する考え方	記載箇所
第1回ふれあい懇談会	各務原会場	この地域では、過去水不足による飢餓は伝えられていない、つまり豊富な木曾三川の水資源を利用した農耕や水運がこの地方で有力な戦国大名を輩出しその後、豊富な地方財力に依り日本をリードする中部経済界を構築したことは、万人が認めることである。 現在、この地方が使用する生活用水、工業用水は供給可能水量と比して思いの外少量であることが報道されています。 この現状から考えてあえて積極的利水は考えず将来本当に必要になったときに容易に開発できる管理された自然型に維持すべきです。	木曾川水系水資源開発基本計画(フルプラン)では、需要と供給のバランスがとれております。	第3章第1節第2項 1 河川水の適正な利用
第1回ふれあい懇談会	弥富会場	尾張に住む住民が、安心・安全な水を今まで通り利用できるようにしてほしい。	木曾川水系水資源開発基本計画(フルプラン)では、需要と供給のバランスがとれております。	第3章第1節第2項 1 河川水の適正な利用
第1回ふれあい懇談会	美濃加茂・坂祝会場(共同開催)	目の前を流れる水がこのまま海まで行ってしまうのもつたいない。右岸用水の利用範囲を広げ農地への供給を多くする。又、一般の人にも利用出来るよう、洗車専用の利用方法はないか。	河川環境を保持するため、一定の流量制限は必要だと考えております。	第3章第1節第2項 1 河川水の適正な利用
第1回ふれあい懇談会	美濃加茂・坂祝会場(共同開催)	木曾川はダムが沢山ある。治水の為、電力の為、水源の為だと思っています。このごろ豪雨の被害が少なくなったとはいえ、まだ天災には勝てないかな。ガンバレ！	河川水の適正な利用については、近年の少雨化傾向に対応した利水安全度の確保や地盤沈下の防止を図るため、既存施設の有効利用及び関係機関と連携した水利用の合理化を促進すること等により、河川水の適正な利用に努めてまいります。	第3章第1節第2項 1 河川水の適正な利用
第1回ふれあい懇談会	瑞穂会場	川それは水に繋がります。その両方は大切です。なにとぞむずかしいことですが利水と水害この二つが河川に対する一番大切であり、おろそかにしてはならない基本で有ると信じます。	木曾川水系水資源開発基本計画(フルプラン)では、需要と供給のバランスがとれております。	第3章第1節第2項 1 河川水の適正な利用
第2回ふれあい懇談会	桑名会場	過去30年間弥富に住んでいます名古屋が節水に入っても自由に水道水が使えました。これからは気候も変化が激しくなり、木曾川の水量が大きく変化すると思います。安心して水道水が使用できる様に計画して実行して下さい。	木曾川水系水資源開発基本計画(フルプラン)では、需要と供給のバランスがとれております。	第3章第1節第2項 1 河川水の適正な利用
第2回ふれあい懇談会	岐阜会場	導水事業は ・ 渇水対策は、原因対策が必要ではないか。	近年、降水量が減少していること等から、木曾川に係る用水では毎年のように渇水が頻発しています。木曾川水系連絡導水路は木曾川水系の異常渇水時において河川環境を改善する他、木曾川に係る用水の渇水被害を軽減するものであり、必要な事業であると考えています。	第3章第1節第2項 1 河川水の適正な利用
第1回ふれあい懇談会	岐阜会場	平常時の水量の確保。	河川水の適正な利用を図るため、水利用の合理化、適正な水利権許認可に努めてまいります。	第3章第1節第2項 1(2) 取水及び貯留制限流量の維持
第1回ふれあい懇談会	可児会場	この地域は特に愛知用水の恩恵を受けていて大変に有り難く思っている。ただし年間を通して稲作時期だけ流れるので年間流れたらもっと利用価値が考えられると思う。	いただいたご意見は、用水管理者の水資源機構へ伝えます。	第3章第1節第2項 1(2) 取水及び貯留制限流量の維持
第4回ふれあい懇談会	岐阜会場	導水路について、突然長良川に水を落とすという話が出てきた感があるが、岐阜市民はどんなメリットがあるのか心配である。また、何キロ地点で水を落とすのか。	長良川には不特定容量を持つダムがなく、渇水時には河川の維持流量が確保できません。そこで、渇水時には木曾川水系連絡導水路により揖斐川から木曾川へ導水される徳山ダムの渇水対策容量の一部を経由させることによって、河川環境の改善を図ることとしています。 なお、長良川への放流地点等、具体・詳細な計画については現在、検討中です。	第3章第1節第2項 1(2) 取水及び貯留制限流量の維持
第4回ふれあい懇談会	桑名会場	水利権の問題。今の上流から取水されると言うことで、河川の整備についていろいろ考えるのはよいが、配慮が足りない。揖斐川から取水するが、塩分が遡上する。田んぼも枯れたりした。上流で取水されると、下流で困る。下流の実情もよく検討願いたい。話にも伺いたい。	揖斐川の水をしっかり確保した上で、木曾川へもっていく計画です。徳山ダムが今年度末完成予定しこれの完成にともなって、一部を木曾川へ持って行く計画になります。徳山ダムにはまず揖斐川の水を確保。水利権と流量はしっかり手当を行った上で木曾川へ持って行く計画です。揖斐川で必要な水利権の水、正常な流量を確保する水、すべて揖斐川に必要な水を確保した上での計画ですので、ご理解願いたい。	第3章第1節第2項 1(2) 取水及び貯留制限流量の維持

「多くのご意見をいただきましたので、現時点では河川管理者の考え方の記述に精粗がありますことをご容赦願います。」

意見をいただいた方法	開催場所	いただいたご意見	いただいたご意見に対する考え方	記載箇所
第1回ふれあい懇談会	可児会場	あたりまえのことですが川は常時水が流れていることであり、年間を通して過度の増水や渇水にならないよう常に変化ではあるがコントロールしてほしいものです。	河川環境の改善のため、新丸山ダムの建設を行うとともに、異常渇水時においても河川環境の改善を図るため、徳山ダムにより確保された渇水対策容量の水を導水するための木曾川水系連絡導水路を整備するとともに水利用の合理化を推進し、維持流量の一部を回復します。	第3章第1節第2項2(1) 河川環境の改善
第1回ふれあい懇談会	神戸・池田会場(共同開催)	農業工業用水としての利用も大切だけれど、景観保護、環境保護のために流水を一定以上確保してほしい	河川環境の改善のため、新丸山ダムの建設を行うとともに、異常渇水時においても河川環境の改善を図るため、徳山ダムにより確保された渇水対策容量の水を導水するための木曾川水系連絡導水路を整備するとともに水利用の合理化を推進し、維持流量の一部を回復します。	第3章第1節第2項2(1) 河川環境の改善
第1回ふれあい懇談会	各務原会場	農業用水としてだけではなく、常時地域の小河川に一定量の取水を行い、地域の景観に役立てて欲しい。	広域的な観点から、都市河川等において水質、親水空間、景観、修景等の生活環境や自然環境の維持・改善に努め、健全な水循環の構築を推進します。	第3章第1節第2項1 河川水の適正な利用
アンケート	-	魚が住め、豊かな生物相を守るため安定した水量が確保できる様に取水量を調整する。	河川水の適正な利用、環境の保全を図るため、水利用の合理化、適正な水利権許認可に努めてまいります。	第3章第1節第2項1 河川水の適正な利用
第1回ふれあい懇談会	可児会場	都市用水、環境改善の導水路、施設の工事計画は、後追い追加工事のようにです。総額いくらかかるか、何年かかるか。上水道用水(加茂、東濃用水)にリンクしない「中」「下」流域の横流し計画は無意味だ。無駄な公共事業になるからやめましょう。「先に公共工事ありき」政策はやめるべきだ。	近年、降水量が減少していること等から、木曾川に係る用水では毎年のように渇水が頻発しています。木曾川水系連絡導水路は木曾川水系の異常渇水時において河川環境を改善する他、木曾川に係る用水の渇水被害を軽減するものであり、必要な事業であると考えています。	第3章第1節第2項1 河川水の適正な利用
第1回ふれあい懇談会	犬山会場	一部地域だけでなく河川の中・上流域からの地下水のかん養を図っていくことが、将来の利水できるきれいな水の確保につながっていくものではないでしょうか。	貴重なご意見ありがとうございます。地下水の涵養を図り、湧水等のもつ環境の機能、利水機能を評価していくことが重要と認識しています。	第3章第1節第2項1 河川水の適正な利用
第1回ふれあい懇談会	大垣会場	水資源は長期的なもので将来豊かな生活を送るには必要な水です。少々の異なる意見があっても計画的に行って下さい。	計画的に推進してまいります。	第3章第1節第2項河川水の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項
第1回ふれあい懇談会	岐阜会場	長良川について水源の確保を考えてもらいたい。	流水の正常な機能の維持については、動植物の生息・生育等に必要な河川環境を改善するため、長良川については、右欄記載箇所のように考えています。	第3章第1節第2項河川水の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項
第1回ふれあい懇談会	岐南・笠松会場(共同開催)	先祖から木曾川に恩恵をいただき今日があります。今は便利になりすぎ有り難さ忘れがちです。田に満水の水で濃尾平野稔りの秋をむかえます。茶碗一杯のお米が何十トンの水がいるかを考えた時、利水を痛感します。	貴重なご意見ありがとうございます。利水は社会の骨格となすものであり、今後も安定供給に向け努めてまいります。	第3章第1節第2項河川水の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項
第1回ふれあい懇談会	江南会場	利水折角上流の里山で降った雨水を而かも三川も有り乍ら大した利用もせず、海に流してしまっている。この地域の平野をうるおすべきゆつくりと、とうとうと流れる河川が街造りに生かされていない。三川の水をコントロールして、夫々通水相互流入を謀り、平野市街地への誘水施設(河川)を新設し、水の豊かな濃尾平野へと改革すべきである。	今後、地域要望も踏まえ、検討してまいります。	第3章第1節第2項河川水の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

「多くのご意見をいただきましたので、現時点では河川管理者の考え方の記述に精粗がありますことをご容赦願います。」

意見をいただいた方法	開催場所	いただいたご意見	いただいたご意見に対する考え方	記載箇所
第2回ふれあい懇談会	名古屋会場	徳山ダムと木曽川導水路は原発と揚水発電所の関係に似ているようにみえる。税金にも環境にももったいないというしかない。もっと知恵を出せないのだろうか。	徳山ダムは治水・利水・河川環境の保持のため必要なダムであり、木曽川連絡導水路は、河川環境の改善、異常渇水時の緊急水の補給、都市用水の必要な施設です。	第3章第1節第2項 河川水の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項
第1回ふれあい懇談会	本巢会場	利水は大切にしたい。	引き続き、安定供給に努めてまいります。	第3章第1節第2項 河川水の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項
第1回ふれあい懇談会	愛西会場	海部幹線水路や農業パイプラインの水がかなり捨てられている。十分利用されていないのではないかと。	河川水の適正な利用を図るため、水利用の合理化、適正な水利権許認可に努めてまいります。	第3章第1節第2項 河川水の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項
第1回ふれあい懇談会	大野会場	3.しかし、大渇水に備えたダム貯留水は必要。木曽川本川にある古いダム(岩屋、牧尾など)は小さなダムであるのに義務放流量が多すぎる。徳山ダムの完成がいいチャンスであるので、全てを白紙に戻して渇水対策の水を多くし、各ダムが均一の危険度を持つダムになるよう検討したらどうか。	引き続き、河川水の適正な利用に努めると共に、水資源開発施設を最大限活用するため、水系全体の総合運用を関係機関と調整し、その実現に努めます。	第3章第1節第2項 河川水の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項
第1回ふれあい懇談会	一宮会場	利水についても、洪水と同じように地球環境変化で、大渇水が起こるおそれもあります。そういう時点でどう対応をすべきか、今からいろいろ対策を練ってほしい。	新たな課題にも対応できるような整備計画となるよう努めてまいります。	第3章第1節第2項 河川水の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項
第1回ふれあい懇談会	一宮会場	淡水が未来不足する時が来る以上、今迄以上に水を大切に利用する様に無駄な水を流さずできるだけ上手に水質を守りながら川を共に生活出来る様に	節水対策について関係機関、利水者と連携して推進してまいります。	第3章第1節第2項 3 渇水時及び異常渇水対策
第1回ふれあい懇談会	岐阜会場	全国的にも夏場の渇水期にも岐阜市では水道水は確保される。大変素晴らしい長良川である。	引き続き、長良川の保全に努めてまいります。	第3章第1節第2項 3 渇水時及び異常渇水対策
第1回ふれあい懇談会	稲沢会場	利水について～私は木曽川用水総合管理所より分水して居る佐屋川用水の利用者である。海部土地改良区の理事をしておりますが、一年中絶える事もなく恵まれた水量をいただき有難く思っております。日々感謝して居ります。他の水系では節水？%とか良く聞きますが、我町ではその様な事ありませんでした。	渇水時に際しましては、節水の協力をお願いします。	第3章第1節第2項 3 渇水時及び異常渇水対策
第2回ふれあい懇談会	桑名会場	徳山ダムは渇水にならないのですか？ うまく各河川に連絡水路で配分出来るのでしょうか？洪水の時は？	利水計画は10年に一度の渇水に対応した容量を確保する計画となっており、計画を越える渇水となった場合には、徳山ダムも渇水となります。なお、渇水になった場合には、ダムが枯渇し深刻な渇水被害が発生しないように節水等の対策を行います。 また、徳山ダムには、異常渇水対策(平成6年渇水時相当)のための容量として、渇水対策容量を確保しており、木曽川水系連絡導水路により、その時々々の渇水状況に応じて各河川に適切に導水することとしています。 洪水については、徳山ダムと下流の横山ダムを連携して運用することにより、基準値点万石における基本高水のピーク流量6300m ³ /sに対して、2400m ³ /sの洪水調節を行います。	第3章第1節第2項 3 渇水時及び異常渇水対策

「多くのご意見をいただきましたので、現時点では河川管理者の考え方の記述に精粗がありますことをご容赦願います。」

意見をいただいた方法	開催場所	いただいたご意見	いただいたご意見に対する考え方	記載箇所
第2回ふれあい懇談会	大垣会場	大垣は、湧水が豊富で「水の都」と呼ばれてきました。しかし、これまでの社会事情のなかで揚水が多くて、その豊富な水も枯渇してきて地盤沈下につながってきました。現在は、地盤沈下も沈静化のようですが、徳山ダムの貯水を木曾川へ流すことで、地下水の保有量が減少し、地盤沈下が再発するのではないかと思います。その点についての調査・検討はなされましたか。	揖斐川では、万石地点において1/10規模の渇水時に20m ³ /s、異常渇水時(平成6年渇水相当)にも20m ³ /sの流量を確保するとともに、水利用の合理化を促進し、維持流量の一部を回復する目標としており、揖斐川において徳山ダムにより一定の流量を確保した上で導水する計画としています。揖斐川については、徳山ダムにより、流況の改善がされるため、河川からの地下水涵養量は増加することは考えられますが、減少することは無いものと思われます。	第3章第1節第2項 3 渇水時及び異常渇水対策
第1回ふれあい懇談会	揖斐川会場	揖斐川の水が無くなることがあるので生物の生態系に悪影響があるので困る。	揖斐川においては、徳山ダムが完成することで、万石地点において1/10規模の渇水時に20m ³ /s、異常渇水時(平成6年渇水相当)にも20m ³ /sの流量が確保されることとなります。	第3章第1節第2項 3 渇水時及び異常渇水対策
第2回ふれあい懇談会	岐阜会場	導水事業は ・長良川への5m ³ /sの効果についてはどうか。(鵜飼舟の航行など)	渇水時において、アユの生息・産卵、鵜飼い舟の航行等に一定の効果があると考えております。	第3章第1節第2項 3 渇水時及び異常渇水対策
第2回ふれあい懇談会	名古屋会場	渇水期が継続する場合の河川計画も検討が必要	渇水時の被害を最小限に抑えるために、水利用者相互間の水融通の円滑化及びダム等の総合運用の実施に関わる対策、並びに節水対策について関係機関、利水者と連携して推進します。	第3章第1節第2項 3 渇水時及び異常渇水対策
第1回ふれあい懇談会	岐阜会場	異常渇水時には、長良川河口堰を利用した渇水対策も必要である。	長良川河口堰を含めた既存の水資源開発施設や木曾川水系連絡導水路等を最大限に活用するため、水系全体の総合運用について、関係機関と調整し、その実施に努めてまいります。	第3章第1節第2項 3 渇水時及び異常渇水対策
第1回ふれあい懇談会	神戸・池田会場(共同開催)	2.徳山ダムは農業者にとって渇水時の農業用水補給を願っております。	揖斐川では、万石地点において1/10規模の渇水時に20m ³ /s、異常渇水時(平成6年渇水相当)にも20m ³ /sの流量を確保するとともに、水利用の合理化を促進し、維持流量の一部を回復する目標としており、揖斐川において徳山ダムにより一定の流量を確保した上で導水する計画としています。引き続き、河川水の適正な利用に努めて参ります。	第3章第1節第2項 3 渇水時及び異常渇水対策
第2回ふれあい懇談会	岐阜会場	導水事業は渇水対策と聞いているが、なぜ揖斐川からなのか理解できない(根尾川でも渇水がある)。 ・揖斐川では横山ダム以降、上流部で水が不足している。	揖斐川では、万石地点において1/10規模の渇水時に20m ³ /s、異常渇水時(平成6年渇水相当)にも20m ³ /sの流量を確保するとともに、水利用の合理化を促進し、維持流量の一部を回復する目標としており、揖斐川において徳山ダムにより一定の流量を確保した上で導水する計画としています。なお、根尾川についても、連絡導水路の活用について検討してまいります。	第3章第1節第2項 3 渇水時及び異常渇水対策
第1回ふれあい懇談会	一宮会場	・大渇水時の備えを早く	新丸山ダム及び木曾川水系連絡導水路の早期完成に向けて事業を推進すると共に、既存の水資源開発施設や木曾川水系連絡導水路等を最大限に活用するため、水系全体の総合運用を関係機関と調整し、その実施に努めます。	第3章第1節第2項 3 渇水時及び異常渇水対策
第1回ふれあい懇談会	北方会場	徳山のダムがまもなく完成して、好結果を生んでくれると思うが、20年以上前に計画して、現在までの投資額に見合った効果があるか少し疑問であるが、完成した以上、より良い方向に利用、利水:又水力発電で環境に良いので石油、原子力より安全、安心する。	徳山ダムを有効活用できる整備計画となるよう努めてまいります。	第3章第1節第2項 3 渇水時及び異常渇水対策
第1回ふれあい懇談会	神戸・池田会場(共同開催)	齊田地区では、防火用井戸の水位が夏と冬場には下がります。揖斐川の流量の影響を受けているように思えます。年間を通じて一定量の放水をお願いします。	井戸の水位と揖斐川の流量との関係は不明ですが、揖斐川においては、万石地点において1/10 規模の渇水時に20m ³ /s、異常渇水時にも20m ³ /s の流量を確保するとともに、水利用の合理化を促進し、維持流量の一部を回復することを目標としております。	第3章第1節第2項 3 渇水時及び異常渇水対策
ハガキ	-	安定水量となる水源管理	既存の水資源開発施設を最大限に活用するため、水系全体の総合運用を関係機関と調整し、その実施に努めます。	第3章第1節第2項 1(1) 既存施設の有効利用及び関係機関と連携した水利用の合理化
第1回ふれあい懇談会	可児会場	長良川河口堰は開放して下さい。水が腐っています。	河口堰のゲートを開放すれば、塩水遡上の影響が生じますので、ご理解をお願いします。	第3章第1節第2項 1(1) 既存施設の有効利用及び関係機関と連携した水利用の合理化

「多くのご意見をいただきましたので、現時点では河川管理者の考え方の記述に精粗がありますことをご容赦願います。」

意見をいただいた方法	開催場所	いただいたご意見	いただいたご意見に対する考え方	記載箇所
第1回ふれあい懇談会	大野会場	2.鉄鋼、製紙など大量に工業用水を使う産業構造ではなくなってきているのは事実である。農業用水(既得用水が多い)もパイプライン化や農地から宅地などへの転用が進み、必要水量が減少(農業者は認めようとしにくい)しているのは事実。一度見直す必要あり。	河川水の適正な利用を図るため、水利用の合理化、適正な水利権許認可に努めてまいります。	第3章第1節第2項1(1) 既存施設の有効利用及び関係機関と連携した水利用の合理化
第1回ふれあい懇談会	輪之内会場	河川の利水について 農業用水、水道用水及び工業用水の供給等今後も河川の水の利用が必要な団体や企業等があれば関係地域全ての人々も含め積極的に協力すべきだと思う。	互恵互利、互譲互生の精神に基づき、調整してまいります。	第3章第1節第2項2(2) 水利用の合理化
第1回ふれあい懇談会	扶桑会場	尾張地方の畑地灌漑に利用されている木曾川の水、大変地方の方々は喜んで農業用水を利用させてもらっていますと話されます。今後この畑地灌漑利水を工業的へも利用する事で大きく効率上がるように思います。	引き続き、河川水の適正な利用に努めてまいります。	第3章第1節第2項2(2) 水利用の合理化
第1回ふれあい懇談会	大垣会場	再考の必要な河川の利水については農業用水への利水が大きく、渇水期には本流でも瀬切れ状況が度々発生し、自然環境が悪化の要因になっている。農業・工業利用の水利権について見直しの時期にきている。	農業用水水利権については、受益面積や営農形態等の変化を踏まえて水利権の見直しを適正に行うこととしており、河川水の適正な利用に努めて参ります。	第3章第1節第2項2(2) 水利用の合理化
第1回ふれあい懇談会	岐阜会場	水は地球上の限りある資源であると共に人の生活や産業に不可欠な基本要素であり、我が国で自給できる唯一の資源であり、貴重で大切なものと考えます。利水へのPR、動機付けが必要と考えます。	今後も引き続き、広報に努めてまいります。	第3章第1節第2項2(2) 水利用の合理化
第3回ふれあい懇談会	桑名会場	揖斐川の水も少なくなくて塩害も生じている、なぜ揖斐川の水を木曾川に持って行くのか解らない。	揖斐川では万石地点において1/10規模の渇水時に20m ³ /s、異常渇水時(平成6年渇水相当)にも20m ³ /sの流量を確保するとともに、水利用の合理化を促進し、維持流量の一部を回復する目標としています。揖斐川を含めて木曾川水系全体の河川環境を改善します。	第3章第1節第2項2(2) 水利用の合理化
アンケート	-	河口堰、水利用しているか？	現在、愛知県の知多半島や三重県北中勢地域に補給を行っています。知多半島には、現在、長良川河口堰から、木曾川の渇水の影響を受けることなく、安定的に供給されて、地域発展に欠かせない水となっています。	第3章第1節第2項2(2) 水利用の合理化
第1回ふれあい懇談会	犬山会場	川の本来的維持と生活用水、農業・工業用水などさまざまに利用されていますが、量的利用については詳しく存じませんので余りコメントはできませんが、将来の利用・利水を考える時、河川の環境は切り離して考える事は出来ないと思います。将来に向けて、健全な水循環系の回復や維持する為に、河川行政担当だけでなく、道路建設、下水道整備等々、各方面が、環境という前提をもって各政策を交えていくことも必要である。	健全な水循環の構築に向けた取組は重要だと考えております。	第3章第1節第2項2(2) 水利用の合理化
第2回ふれあい懇談会	一宮会場	(常時維持揚水の確保にもっとコスト縮減案はないでしょうか。)	既存施設の有効利用及び関係機関と連携した水利用の合理化を推進すること等、河川水の適正な利用に努めてまいります。流量を確保するための事業の実施あたっては、コスト縮減に努めてまいります。	第3章第1節第2項2(2) 水利用の合理化
第2回ふれあい懇談会	美濃加茂会場	可児川は完全に維持流量不足、水利用合理化の普及を期待したい。	水利用の合理化の推進を行い、流水の正常な機能維持に努めます。	第3章第1節第2項2(2) 水利用の合理化
第1回ふれあい懇談会	大垣会場	地元では農業用水として杭瀬川より山王用水及び折立用水の貴重な水をいただいています。豊富な水河川による子供達への教育にも十分な利用がなされていると思う。	引き続き、用水の多面的機能等に配慮しつつ、水利権審査に努めて行きたいと考えております。	第3章第1節第2項1(3) 適正な水利権許認可
第1回ふれあい懇談会	大垣会場	国営西濃用水の恩恵を受けながら今日まで農業を続けて参りました。20才の頃より土地改良事業、拓干、区画整理等に携り、30年来用水との繋がりをもちながら水田の灌漑水として利用させていただき感謝しております。用水系態の中で500ha位の区域の用水運営を任されて勉強しております。今後も健康に留意しながら大切に活用して行きたい。	引き続き、用水の多面的機能等に配慮しつつ、水利権審査に努めて行きたいと考えております。	第3章第1節第2項1(3) 適正な水利権許認可

「多くのご意見をいただきましたので、現時点では河川管理者の考え方の記述に精粗がありますことをご容赦願います。」

意見をいただいた方法	開催場所	いただいたご意見	いただいたご意見に対する考え方	記載箇所
第2回ふれあい懇談会	岐阜会場	木曾川は水が少なく、利水管理に対する疑問がある。 農業用水の需要が減らないのは疑問である。 濃尾用水は、受益田が半分になっているのに、取水量は変わらない。 実態を十分調査して議論を詰めてほしい。 利水に関する委員会の議論は貧しい。もっと議論してほしい。 連絡導水路などいらぬのではないか。 既得水利権の難しさがあり、結論が出しにくい。 管理者側だけでなく、利用者側での話し合いが必要ではないか。	農業用水水利権については、受益面積や営農形態等の変化を踏まえて水利権の見直しを適正に行うこととしております。農業用水は本線から支線へ分水する箇所にゲートなどの水位調節施設がない場合が多く、その場合分水水位を維持するための水量が必要となり、受益面積が減った分だけ水量を減量させると分水できなくなり場合も生じ、面積の減がそのまま水量の減に反映することが難しい場合があります。今後も引き続き、河川水の適正な利用に努めて参ります。	第3章第1節第2項 1(3) 適正な水利権 許認可
第3回ふれあい懇談会	岐阜会場	山口頭首工の取水について、河川がかれてしまうので、見直しをしてほしい。	山口頭首工に係る用水については、慣行水利権となっております。慣行水利権については、許可水利権化を進め、河川水の適正な利用に努めて参ります。	第3章第1節第2項 1(3) 適正な水利権 許認可
第1回ふれあい懇談会	揖斐川会場	揖斐川がたびたび濁水するようになり用水の取水調節をして、無駄な水の取水を少なくして川が涸れないように工夫出来ないか。	農業用水水利権については、受益面積や営農形態等の変化を踏まえて水利権の見直しを適正に行うこととしており、河川水の適正な利用に努めて参ります。	第3章第1節第2項 1(3) 適正な水利権 許認可
第1回ふれあい懇談会	揖斐川会場	揖斐川からの西濃用水について果たしてあれだけの水量がいるのでしょうか。 下流で無駄に捨てられているのです。取水調節を新たにしていきたい。	農業用水水利権については、受益面積や営農形態等の変化を踏まえて水利権の見直しを適正に行うこととしております。農業用水は本線から支線へ分水する箇所にゲートなどの水位調節施設がない場合が多く、その場合分水水位を維持するための水量が必要となり、この水は末端まで行き河川へ戻ることとなります。今後も引き続き、河川水の適正な利用に努めて参ります。	第3章第1節第2項 1(3) 適正な水利権 許認可
第3回ふれあい懇談会	桑名会場	慣行水利権と許可水利権について知りたい	許可水利権とは、河川法第23条に基づき、流水占用の許可を受けた水利権を指します。これに対し、慣行水利権とは旧河川法制定(明治29年)時点ですでに河川から取水を行っていたもので、河川法の規定による許可を受けたものとみなしている権利を指します。慣行水利権については、許可水利権に比べ、その権利内容が必ずしも明確ではなく、水利使用による影響が把握しづらいなどの問題があるため、許可水利権への切り替えを進めています。	第3章第1節第2項 1(3) 適正な水利権 許認可
第3回ふれあい懇談会	桑名会場	水利権許可が実態に合っていない事を理解してほしい。	許可水利権については、現状の使用実態、受益面積、使用量などが権利と比べて適正か、更新の際など定期的に調査しています。いただいたご意見を受け止め、適正な水利用が行われるよう努めていきます。	第3章第1節第2項 1(3) 適正な水利権 許認可
第1回ふれあい懇談会	多度会場	南三郷地区では現在、揖斐川の水を利用して水稻を行っている。水利権を地元においてほしい。	水利権の付与には、所定の審査や手続きが必要となります。 詳細については窓口(事務所占用調整課)と協議をお願いします	第3章第1節第2項 1(3) 適正な水利権 許認可
第1回ふれあい懇談会	可児会場	『水利権が欲しい』 豊富な木曾川の流れを目の前にしながら、渇水期には岩屋ダムの水枯れの報に頭を痛める。そんな時期でも名古屋市の水不足の話は聞かない。昔からの水利権で、木曾川の水が必要量供給されていると聞く。可児市が木曾川の水を得ることは、今となってはどうにもならないことだと聞く。 しかし、愛知用水はそのことを克服して大量の水を遠く知多まで送っているのである。可茂地域も将来的には人工増が予想される。水の問題をこのまま次世代に引き継ぐことは許されないと思う。	水利権は、基本的には権利の成立順序によることとされていますが、渇水時には互譲により調整を図っています。既存施設の有効利用及び関係機関と連携した水利用の合理化を促進すること等により、河川水の適正な利用に努めて参ります	第3章第1節第2項 1(3) 適正な水利権 許認可
第3回ふれあい懇談会	桑名会場	許可水利権の使用方法を現状に併せて運用できるようにしてほしい。	許可水利権については、現状の使用実態、受益面積、使用量などが権利と比べて適正か、更新の際など定期的に調査しています。いただいたご意見を受け止め、適正な水利用が行われるよう努めていきます。	第3章第1節第2項 1(3) 適正な水利権 許認可
第1回ふれあい懇談会	一宮会場	河川の水利用は同じとして優先度をなくす公平に水利用を図る。	水利権は、基本的には権利の成立順序によることとされていますが、渇水時には互譲により調整を図っています。既存施設の有効利用及び関係機関と連携した水利用の合理化を促進すること等により、河川水の適正な利用に努めて参ります	第3章第1節第2項 1(3) 適正な水利権 許認可

「多くのご意見をいただきましたので、現時点では河川管理者の考え方の記述に精粗がありますことをご容赦願います。」

意見をいただいた方法	開催場所	いただいたご意見	いただいたご意見に対する考え方	記載箇所
第1回ふれあい懇談会	岐阜会場	江戸時代からの水利権が過剰に尊重されています。水は国民皆の物です。一旦利権を白紙に戻して再配分が必要です。勝手に変更できないでしょうから、法律制定が必要でしょう。その気運を高めるPRをしましょう。	水利権は、基本的には権利の成立順序によることとされていますが、渇水時には互譲により調整を図っています。既存施設の有効利用及び関係機関と連携した水利用の合理化を促進すること等により、河川水の適正な利用に努めて参ります	第3章第1節第2項 1(3) 適正な水利権 許認可
第1回ふれあい懇談会	可児会場	利用・利水の現状がよく分からない。昔から水利権なるものがあると聞か……。 可児市など近くに川があっても利用できないとは……。トホホ……。	歴史的な経過にも十分に配慮して行くべきことと考えております。 水利権は、基本的には権利の成立順序によることとされていますが、渇水時には互譲により調整を図っています。既存施設の有効利用及び関係機関と連携した水利用の合理化を促進すること等により、河川水の適正な利用に努めて参ります	第3章第1節第2項 1(3) 適正な水利権 許認可
第1回ふれあい懇談会	可児会場	木曾川は豊富な水量があり、流域の必要水量を確保するため、水利権の見直しを。	許可水利権については、現状の使用実態、受益面積、使用量などが権利と比べて適正か、更新の際など定期的に調査しています。いただいたご意見を受け止め、適正な水利用が行われるよう努めていきます。	第3章第1節第2項 1(3) 適正な水利権 許認可
第1回ふれあい懇談会	可児会場	身近なところで水道がある。これに水利権が関わっている。地域差がでていて、可児市の水道は料金が低い。昔の農業用水のなごりの様な水利権は廃止すべきである。少なくとも水道用だけでも除外して欲しいものだ。 地下水は地盤沈下の原因となるため、河口堰や徳山ダムを利用する。地下水には水利権はなかった様に思う？何か公平性に欠ける権利だ。あまり関係ない事書いてすみません。	歴史的な経過にも十分に配慮して行くべきことと考えております。 地下水利用は、河川法の水利権の対象ではありませんが、水循環の一翼を担っており、適正な利用が求められていると考えております。	第3章第1節第2項 1(3) 適正な水利権 許認可
第1回ふれあい懇談会	可児会場	河川流域に住みながら水利権(昔のままの特権)により水の利用がままならぬ問題が多くある様に思う。水利権の見直しにより住民すべてが平等に水という自然の恩恵が受けられるよう希望する。	歴史的な経過にも十分に配慮して行くべきことと考えております。 水利権は、基本的には権利の成立順序によることとされていますが、渇水時には互譲により調整を図っています。既存施設の有効利用及び関係機関と連携した水利用の合理化を促進すること等により、河川水の適正な利用に努めて参ります	第3章第1節第2項 1(3) 適正な水利権 許認可
第1回ふれあい懇談会	美濃加茂・坂祝会場(共同開催)	水利権、既得権が強すぎる。目の前の水が使えないのは寂しい。	歴史的な経過にも十分に配慮して行くべきことと考えております。 水利権は、基本的には権利の成立順序によることとされていますが、渇水時には互譲により調整を図っています。既存施設の有効利用及び関係機関と連携した水利用の合理化を促進すること等により、河川水の適正な利用に努めて参ります	第3章第1節第2項 1(3) 適正な水利権 許認可
第1回ふれあい懇談会	犬山会場	利水に関する事で水利権の問題を良く耳にしますがどうも旧態と言うか以前の権利にふり廻されている様に感じます。名古屋の妹川に木曾川の水と言う話が水利権の問題で立ち消えになった様に聞きますが、河川管理者の大局的に見た大英断がと思えますが考えすぎでしょうか？	妹川の存在を確認できませんでしたが、今後、地域要望も踏まえ、検討してまいります。	第3章第1節第2項 1(3) 適正な水利権 許認可
第1回ふれあい懇談会	大野会場	当地域の住民には農業従事者も多く、水田・果樹・そ菜などの利水利用には、常に安定した水供給が受けられ、大いに助かっています。今後ともよろしく願います。	引き続き、安定供給に努めてまいります。	第3章第1節第2項 1(3) 適正な水利権 許認可
第2回ふれあい懇談会	美濃加茂会場	水利権の見直しを 実情の水の使用状況は過去と大きく変化しています。河川の水量確保のためにも水域の・・は必要です。	河川水の適正な利用を図るため、水利用の合理化、適正な水利権許認可に努めてまいります。	第3章第1節第2項 1(3) 適正な水利権 許認可
第1回ふれあい懇談会	美濃加茂・坂祝会場(共同開催)	川の権利の分け方。	水利権は、基本的には権利の成立順序によることとされていますが、渇水時には互譲により調整を図っています。既存施設の有効利用及び関係機関と連携した水利用の合理化を促進すること等により、河川水の適正な利用に努めて参ります	第3章第1節第2項 1(3) 適正な水利権 許認可
第1回ふれあい懇談会	本巢会場	又水利権の問題はどうなっているのでしょうか。どうなるのでしょうか。	農業用水の水利権については、受益面積や営農形態等の変化を踏まえて水利権の見直しを適正に行うこととしており、河川水の適正な利用に努めて参ります。	第3章第1節第2項 1(3) 適正な水利権 許認可

「多くのご意見をいただきましたので、現時点では河川管理者の考え方の記述に精粗がありますことをご容赦願います。」

意見をいただいた方法	開催場所	いただいたご意見	いただいたご意見に対する考え方	記載箇所
第1回ふれあい懇談会	大野会場	根尾川右岸の国道303号線にかかる「藪川大橋」のすぐ下流に住む者として、2つの要望をする。 根尾川には「水田に水を引く時期」川には一滴の水もなく、「さいの河原」になる。既得権とはいえ、河川水を一網打尽にして持って行ってしまう権利が農業者にあるのか？チェックしていただきたい。 川は水が流れてこそ川というのだと思う。	農業用水水利権については、受益面積や営農形態等の変化を踏まえて水利権の見直しを適正に行うこととしており、河川水の適正な利用に努めて参ります。	第3章第1節第2項 1(3) 適正な水利権 許認可
第3回ふれあい懇談会	岐阜会場	西濃用水の取水方法を見直してほしい。	農業用水水利権については、受益面積や営農形態等の変化を踏まえて水利権の見直しを適正に行うこととしております。農業用水は本線から支線へ分水する箇所にゲートなどの水位調節施設がない場合が多く、その場合分水水位を維持するための水量が必要となり、この水は末端まで行き河川へ戻ることとなります。今後も引き続き、河川水の適正な利用に努めて参ります。	第3章第1節第2項 1(3) 適正な水利権 許認可
アンケート	-	愛知は岐阜の恩恵で成る。愛知用水、豊川用水、岐阜は愛知の植民地でない。	歴史的な経過にも十分に配慮して行くべきことと考えております。 水利権は、基本的には権利の成立順序によることとされていますが、渇水時には互譲により調整を図っています。既存施設の有効利用及び関係機関と連携した水利用の合理化を促進すること等により、河川水の適正な利用に努めて参ります	第3章第1節第2項 1(3) 適正な水利権 許認可
ホームページ	-	木曽川水系の水資源問題を中長期の視点から整理する場合、既存の農業用水の水利権実態と水利権の関係を見直す作業が必要と思われる。 (中略:詳細別途) 私は、受益面積が減少したので単純に同じ割合で水利権水量が減少するとは思いません。寧ろ、無秩序な潰廃により、必要な管理用水は増大、灌漑初期の地下水の低下を補う涵養用水は増大、地域の環境用水等も増加すると思われれます。しかし、これらの要因による増加水量を差し引いても地区の受益面積が約半分に減少した事実があるにも関わらず、約40年前の従来の水利権水量がほぼ同量なままの水利権が認められ、取水されている現状に大いに疑問を生じます。 うがった見方をすれば、行政機関は、既存の水利権を見直す作業を行わない方が新たな水資源開発事業は計画しやすいと思う次第です。 このような実態を踏まえ、今後の委員会では流水管理・水利用について再調査を行い、それを基に既存の水利権実態を見直す作業が行われ、流水管理の計画が策定されることを切に願うものです。 私は、地域で必要でなくなった水資源は、木曽川本川に返す必要があると思えます。人間の生産・生活活動の変化により必要でなくなった水資源は元の川に戻すべきだと思います。そのことにより、自流が豊かな生態系の豊かな河川を回復することができると思えます。	水利権の適正な見直しを行い、水利用の合理化を進めます。	第3章第1節第2項 1(3) 適正な水利権 許認可
第3回ふれあい懇談会	一宮会場	必要な場所に、必要量を供給する。これを可能にする為には無駄な流れを抑制することが必要である。総量が限られている現実を直視すべきであり、往時の慣習は見直されるべきであろう。	許可水利権については、水利権の更新時に行う水利審査において、使用水量の実態や給水人口の動向、受益面積や営農形態等の変化を踏まえて水利権の見直しを適正に行うとともに、慣行水利権の許可水利権化を進めてまいります。	第3章第1節第2項 1(3) 適正な水利権 許認可
第3回ふれあい懇談会	桑名会場	水利権の問題	水利権については、更新時において使用水量の実態等を踏まえて適正に審査し、水利用の合理化を進めます。	第3章第1節第2項 1(3) 適正な水利権 許認可
第3回ふれあい懇談会	岐阜会場	流域委員会でもっと水利権の見直しについて議論すべき。	第3回、第5回、第8回等議論いただいております。	第3章第1節第2項 1(3) 適正な水利権 許認可
第3回ふれあい懇談会	岐阜会場	農業用の水利権の見直しを行い、木曽川を豊かな水量の川にすべき。	農業用水水利権については、受益面積や営農形態等の変化を踏まえて水利権の見直しを適正に行うこととしており、河川水の適正な利用に努めて参ります。	第3章第1節第2項 1(3) 適正な水利権 許認可

「多くのご意見をいただきましたので、現時点では河川管理者の考え方の記述に精粗がありますことをご容赦願います。」

意見をいただいた方法	開催場所	いただいたご意見	いただいたご意見に対する考え方	記載箇所
第1回ふれあい懇談会	大野会場	根尾川について 10年以前と比べて水量が少なくなっているように思われるが、実際はどうか。	根尾川には山口水という慣行水利権による取水がなされており、取水の実態が明らかでないため、水量の減少については把握できておりません。慣行水利権については、許可水利権化を進め、河川水の適正な利用に努めて参ります。	第3章第1節第2項1(3) 適正な水利権許認可
第1回ふれあい懇談会	北方会場	山口頭首工の下流の水門(舟伏山西地域)が下りた状態が多い。以前新聞で3cmを開いて下流部に水を流す記事を見ましたが…	山口頭首工に係る用水については、慣行水利権となっております。慣行水利権については、許可水利権化を進め、河川水の適正な利用に努めて参ります。	第3章第1節第2項1(3) 適正な水利権許認可
第1回ふれあい懇談会	北方会場	山口頭首工は3cm開けて水を流すことで糸貫川がきれいになるという条件で聞いていたが(新聞にも載ったが)、いつも閉まっていて、そのため糸貫川が汚くなっている。	山口頭首工に係る用水については、慣行水利権となっております。慣行水利権については、許可水利権化を進め、河川水の適正な利用に努めて参ります。	第3章第1節第2項1(3) 適正な水利権許認可
第2回ふれあい懇談会	名古屋会場	水利利用の合理化の推進、慣行用水の許可の推進について、特に現状に合ったものとなるようにしていただきたい。	農業用水利権については、受益面積や営農形態等の変化を踏まえて水利権の見直しを適正に行うことともに、慣行水利権の許可水利権化を進め、河川水の適正な利用に努めて参ります。	第3章第1節第2項1(3) 適正な水利権許認可
第2回ふれあい懇談会	名古屋会場	水利利用の合理化を推進するために節水協議会を設立して水利利用の調整をおこない、さらに水利権の更新の際には農業水利の現状にあった見直しをして欲しい。	農業用水利権については、受益面積や営農形態等の変化を踏まえて水利権の見直しを適正に行うこととしており、河川水の適正な利用に努めて参ります。	第3章第1節第2項1(3) 適正な水利権許認可
第1回ふれあい懇談会	各務原会場	木曾川の景観を守る 自然を守ることが景観を守る 犬山頭首工は所管省庁が国土交通省ではないと思う。羽島用水、木津用水で水利利用している これは自然環境を一変した。水の不必要なときはゲートあげること。	いただいたご意見は犬山頭首工を所管している農林水産省に伝えるとともに、河川水の適正な利用に努めます。	第3章第2節第2項1(1) 適正な流水管理や水利利用
第1回ふれあい懇談会	各務原会場	木曾川鶴沼地域にはライン大橋(頭首工)があります。羽島用水、木津用水により水利利用が急速に進められてきました。しかし、ダムを造るとことは自然の河川の姿、水の流れを一変してしまうものであります。60年前の木曾川は両岸に岩盤が連なり人の生活を変えてきたのはこの美しい木曾川であります。従って用水の不必要な時は極力ゲートを上げ、下流へ水を流して自然の姿にして欲しいと思います。	犬山頭首工を所管している農林水産省に伝えるとともに、河川水の適正な利用に努めて参ります。	第3章第2節第2項1(2) 適正な流水管理や水利利用
第1回ふれあい懇談会	各務原会場	犬山頭首工で景観が一変した。小学校の時は木曾川を横断していたが、今は水がたまって泳げない。水が不必要なときはゲートを上げて下流へ水を流して欲しい。昔の景観が戻る。	犬山頭首工は、安定した取水が出来ない事を解消するために堰を設け取水口を統合し安定した取水を行うために造られた施設で、年間を通じ取水しているため一定の水位を保つ必要があります。また、犬山頭首工から下流の河川水については、新丸山ダム及び木曾川水系連絡導水路の建設によって改善を図ります。	第3章第1節第2項2(1) 河川環境の改善
第3回ふれあい懇談会	桑名会場	②肱江川右岸北田樋管の慣行水利権より許可水利権に移行した具体的説明と利水量と期間の実情にあった検討をお願いしたいと思います。この地域の永代よりある水利権を確保していただき農業生産の安定とさせていただきますようお願いするものです。	慣行水利権から許可水利権に切り替える際、その許可水量、期間などは一義的に元の慣行水利権を元にするものとなります。当初の慣行水利権が規定している期間を超える期間の取水については、慣行水利権を元にするものではなく新たな水利権として、河川の流量や他の利水者との調整をはかる必要があります。ご理解いただきますようお願いいたします。	第3章第1節第2項1(3) 適正な水利権許認可
第1回ふれあい懇談会	養老会場	水田用の取水口を移築したいのですがなかなか難しいようですがどの様に運ばばいいのですか？	河川管理者に適正な改築を申請し、許可を取ってください。	第3章第2節第1項5 許可工作物の適正維持管理
第4回ふれあい懇談会	岐阜会場	農業用水の現状については、地下水と面積のコメントが定性的と定量的な表現が混在しており、資料の説明になっていない。実態を解明する為に委員会をつくって公に議論すべきである。どういった対策を講じたら水利が減じられるか検討すべきである。	濃尾用水については、現在利水者と協議中ではありますが、かんがい面積については平成14年の土地改良区賦課台帳により10,514haとし、減水深は平成15、16年の107箇所の実測値、配水管理用水は172箇所に分水地点の構造から算定、地盤沈下に対する地下水涵養量は19箇所の地下水観測値から算定、その他稲作付け実態調査を行うなど、営農形態の変化を踏まえて必要水量を算定し、水利権の見直しを適正に行うこととしています。	第3章第1節第2項1(3) 適正な水利権許認可
第4回ふれあい懇談会	岐阜会場	田畑に住む生き物の為にも川の水をすぐに伊勢湾に流すのではなく、一定量を農業用水に回すことが必要である生態系を維持するという観点からも重要である。	農業用水利権については、受益面積や営農形態等の変化を踏まえて水利権の見直しを適正に行うこととしており、河川水の適正な利用に努めて参ります。	第3章第1節第2項1(3) 適正な水利権許認可

「多くのご意見をいただきましたので、現時点では河川管理者の考え方の記述に精粗がありますことをご容赦願います。」

意見をいただいた方法	開催場所	いただいたご意見	いただいたご意見に対する考え方	記載箇所
第8回流域委員会	-	「第8回流域委員会」で農業利水についての資料が出てきたのは出てこないよりは良いですけど、あまりほめられた資料ではありませんでした。まるで「水田面積(受益面積)の減少分に比例して農業用水の利用も減っているはずだ」という乱暴な(稚拙な)議論を誰かがし、それに答えているのがごとく。これが「悪意」でないとするれば、河川管理者の農業利水への理解の低さを露呈した以外の何ものでもありません。	農業用水については、使用水量の実態、受益面積、営農形態の変化等を踏まえて、水利権の適正な見直しを行って参ります。	第3章第1節第2項1(3) 適正な水利権許認可
第1回ふれあい懇談会	可児会場	問4における(5)水量が豊かであること大河川にあたっては水量が多く良しとするが、川(この付近では可児川)にあつては松野潮があり水量の調整により水害が無くありがたく思っていますが、反面、水量が一定しているため河床が浅くなったり、ゴミ等が流れず。汚れがめだつと思っています。	大臣管理区間を対象としているため、河川整備計画原案(案)には反映していません。ご指摘については、可児川の河川管理者である岐阜県に伝えます。	第3章第1節第2項4 発電減水区間及び都市河川対策
第1回ふれあい懇談会	可児会場	今渡ダムができたことによって、川の流れが変わってしまった。	屋間のピーク発電によって変動する流量を平準化するために、逆調節ダムとして今渡ダムが建設されております。ご理解をお願いします。	第3章第1節第2項4 発電減水区間及び都市河川対策
第2回ふれあい懇談会	美濃加茂会場	国の直接管理ではないが、岩屋ダムの利水等も具体性をもって整備計画に組み込んでほしい。	岩屋ダムも含め、木曾川水系水資源開発基本計画(フルプラン)で利水計画が立案されております。	第3章第1節第2項4 発電減水区間及び都市河川対策
第2回ふれあい懇談会	名古屋会場	水力発電所により、川に水がない(少ない)所が多い。以前より改善されている所もあるとのことであるが一層の改善をすすめていただきたい。	発電区間の取水による減水区間における河川流量の再生については、水利権の期間更新時に発電事業者と調整し河川維持流量の回復に努めてまいります。	第3章第1節第2項4 発電減水区間及び都市河川対策
ハガキ	-	発電ダムの減水区間における流水量を増やしてほしい。	発電区間の取水による減水区間における河川流量の再生については、水利権の期間更新時に発電事業者と調整し河川維持流量の回復に努めてまいります。	第3章第1節第2項4 発電減水区間及び都市河川対策
ハガキ	-	木曾川が流れていない景観が悪いです。発電用ダムの減水区間の流水量を増やしてほしい。	発電区間の取水による減水区間における河川流量の再生については、水利権の期間更新時に発電事業者と調整し河川維持流量の回復に努めてまいります。	第3章第1節第2項4 発電減水区間及び都市河川対策
ハガキ	-	発電所の取水による減水区間の流水量を増やし、木曾川の川としての機能と景観を高めること。	発電区間の取水による減水区間における河川流量の再生については、水利権の期間更新時に発電事業者と調整し河川維持流量の回復に努めてまいります。	第3章第1節第2項4 発電減水区間及び都市河川対策
第1回ふれあい懇談会	羽島会場	羽島市は自然の恵みは雨水だけである。それには河川への導水により環境の変化が期待できる。	都市河川等における河川流量の回復や導水については、右欄記載箇所のように考えています。	第3章第1節第2項4 発電減水区間及び都市河川対策
第3回ふれあい懇談会	岐阜会場	お願い (1)西濃用水、西部分水用水、瑞岩寺導水路、東川用水の一定水量の確保 (2)根尾川の安定水確保及び糸貫川、真桑用水の一年間を通した水確保	河川整備計画原案(案)では「都市河川等において水質、親水空間、景観、修景等の生活環境や自然環境の維持改善に努め健全な水循環の構築を推進する。」としています。水を新規取水するには、導水元河川の影響検討を行い、水利権の取得や河川管理行為の協議が必要であるため、関係市町村、関係団体や水路管理者との調整が必要となります。	第3章第1節第2項4 発電減水区間及び都市河川対策
第3回ふれあい懇談会	一宮会場	水量の確保は水質の維持あつてのことである。この観点からも水源涵養のウエイトを更に見直すべき。	貴重なご意見ありがとうございます。 今後の河川行政の参考とさせていただきます。	第3章第1節第2項4 発電減水区間及び都市河川対策
第1回ふれあい懇談会	愛西会場	佐屋川の水を、その東側にある鷹場川に導水してほしい。	河川整備計画原案(案)では「都市河川等において水質、親水空間、景観、修景等の生活環境や自然環境の維持改善に努め健全な水循環の構築を推進する。」としています。水を新規取水するには、導水元河川の影響検討を行い、水利権の取得や河川管理行為の協議が必要であるため、関係市町村、関係団体や水路管理者との調整が必要となります。	第3章第1節第2項4 発電減水区間及び都市河川対策
アンケート	-	太田区の特設堤防の西の水路に水がたまり、「か」が毎年発生するため薬で発生を防いでいますが①早い内に海津橋より南之水が流れるようにしていただきたい。	現地状況を確認の上、今後、関係機関と十分な協議・連携を図ります。	第3章第1節第2項4 発電減水区間及び都市河川対策

「多くのご意見をいただきましたので、現時点では河川管理者の考え方の記述に精粗がありますことをご容赦願います。」

意見をいただいた方法	開催場所	いただいたご意見	いただいたご意見に対する考え方	記載箇所
第1回ふれあい懇談会	羽島会場	逆川に水の導水をして地域の川の環境をよくする。	現時点において個別河川の具体的な対策計画はありませんが、広域的な観点から、都市河川等においては、水質、親水空間、景観、修景等の生活環境や自然環境の維持・改善に努め、健全な水循環の構築を推進していきたいと考えています。	第3章第1節第2項 4 発電減水区間及び都市河川対策
第1回ふれあい懇談会	輪之内会場	大樽川の水を浄化のため、長良川から導入し、水を改善する事はできないか。	頂いたご意見については、大樽川の河川管理者である岐阜県に伝えます。 なお、都市河川等において水質、親水空間、景観、修景等の生活環境や自然環境の維持・改善に努め、健全な水循環の構築を推進します。	第3章第1節第2項 4 発電減水区間及び都市河川対策
第1回ふれあい懇談会	輪之内会場	大樽川が死の川と化しています。長良川より取水をして、大樽川に水流作り、昔のようにきれいな川にしていきたい。	現時点において個別河川の具体的な対策計画はありませんが、広域的な観点から、都市河川等においては、水質、親水空間、景観、修景等の生活環境や自然環境の維持・改善に努め、健全な水循環の構築を推進していきたいと考えています。	第3章第1節第2項 4 発電減水区間及び都市河川対策
第1回ふれあい懇談会	輪之内会場	私は大樽川近くに住んでいます。昭和30～40年頃迄はきれいな川でモロコ、センバ等が住む素晴らしい川でした。所が今では死の川と化し、ときには悪臭のする川となりました。長良川の水を取水し、揖斐川に流すように利用していただければ昔のようなホテルの飛び交ういい場所となります。是非ご検討下さい。	現時点において個別河川の具体的な対策計画はありませんが、広域的な観点から、都市河川等においては、水質、親水空間、景観、修景等の生活環境や自然環境の維持・改善に努め、健全な水循環の構築を推進していきたいと考えています。	第3章第1節第2項 4 発電減水区間及び都市河川対策
第1回ふれあい懇談会	高須輪中会場	高須輪中内の水路(大江川、中江川)の水質浄化のため、冬場に揖斐川や長良川の水を輪中内の水路に導水するとよい。	現時点において個別河川の具体的な対策計画はありませんが、広域的な観点から、都市河川等においては、水質、親水空間、景観、修景等の生活環境や自然環境の維持・改善に努め、健全な水循環の構築を推進していきたいと考えています。	第3章第1節第2項 4 発電減水区間及び都市河川対策
第1回ふれあい懇談会	高須輪中会場	高須輪中内の水路の水質浄化のため、揖斐川や長良川の水を輪中内の水路に導水するとよい。	現時点において個別河川の具体的な対策計画はありませんが、広域的な観点から、都市河川等においては、水質、親水空間、景観、修景等の生活環境や自然環境の維持・改善に努め、健全な水循環の構築を推進していきたいと考えています。	第3章第1節第2項 4 発電減水区間及び都市河川対策
第1回ふれあい懇談会	高須輪中会場	堤内河川(大江川、中江川等)の水質改善のために、月に数回、本川の水を入れることはできないか知りたい。	現時点において個別河川の具体的な対策計画はありませんが、広域的な観点から、都市河川等においては、水質、親水空間、景観、修景等の生活環境や自然環境の維持・改善に努め、健全な水循環の構築を推進していきたいと考えています。	第3章第1節第2項 4 発電減水区間及び都市河川対策
第1回ふれあい懇談会	長島会場	輪中内の河川の水質が悪いので改善策を講じてほしい。	現時点において個別河川の具体的な対策計画はありませんが、広域的な観点から、都市河川等においては、水質、親水空間、景観、修景等の生活環境や自然環境の維持・改善に努め、健全な水循環の構築を推進していきたいと考えています。	第3章第1節第2項 4 発電減水区間及び都市河川対策
第1回ふれあい懇談会	弥富会場	筏川、鷺戸川等近辺の川は昔はきれいだったが今は悪臭と汚れが見られる。対策を講じてほしい。	現時点において個別河川の具体的な対策計画はありませんが、広域的な観点から、都市河川等においては、水質、親水空間、景観、修景等の生活環境や自然環境の維持・改善に努め、健全な水循環の構築を推進していきたいと考えています。	第3章第1節第2項 4 発電減水区間及び都市河川対策
第1回ふれあい懇談会	弥富会場	昔は木曾川が佐屋川、鷺戸川、筏川、鍋田川などへ放水されていたが、今ほとんど放水されず、すべての川が淀み、汚れているので、木曾川の水を河川に流してほしい。	現時点において個別河川の具体的な対策計画はありませんが、広域的な観点から、都市河川等においては、水質、親水空間、景観、修景等の生活環境や自然環境の維持・改善に努め、健全な水循環の構築を推進していきたいと考えています。	第3章第1節第2項 4 発電減水区間及び都市河川対策
第1回ふれあい懇談会	弥富会場	河川水を市内河川の水環境改善に有効活用してほしい。	現時点において個別河川の具体的な対策計画はありませんが、広域的な観点から、都市河川等においては、水質、親水空間、景観、修景等の生活環境や自然環境の維持・改善に努め、健全な水循環の構築を推進していきたいと考えています。	第3章第1節第2項 4 発電減水区間及び都市河川対策
第1回ふれあい懇談会	木曾岬会場	本川の水を利用して町内の排水路の美化に活用したい。	現時点において個別河川の具体的な対策計画はありませんが、広域的な観点から、都市河川等においては、水質、親水空間、景観、修景等の生活環境や自然環境の維持・改善に努め、健全な水循環の構築を推進していきたいと考えています。	第3章第1節第2項 4 発電減水区間及び都市河川対策
第1回ふれあい懇談会	木曾岬会場	木曾岬町内にある水路で流れの悪い場所があり、その場所の水質が悪化している。水防団の放水を利用して水路に流すとよいのではないか。	現時点において個別河川の具体的な対策計画はありませんが、広域的な観点から、都市河川等においては、水質、親水空間、景観、修景等の生活環境や自然環境の維持・改善に努め、健全な水循環の構築を推進していきたいと考えています。	第3章第1節第2項 4 発電減水区間及び都市河川対策
第2回ふれあい懇談会	美濃加茂会場	化石林公園内の水路は夏場に牛乳を流したような水になるので、木曾川から水を流せば希釈されてきれいになると思う。	いただいたご意見については、化石林公園の施設管理者に伝えます。	第3章第1節第2項 4 発電減水区間及び都市河川対策

「多くのご意見をいただきましたので、現時点では河川管理者の考え方の記述に精粗がありますことをご容赦願います。」

意見をいただいた方法	開催場所	いただいたご意見	いただいたご意見に対する考え方	記載箇所
アンケート	-	大樽川を蘇生させるには長良川の水が必要です。	いただいたご意見については、大樽川の河川管理者である岐阜県に伝えます。なお、都市河川等において水質、親水空間、景観、修景等の生活環境や自然環境の維持・改善に努め、健全な水循環の構築を推進します。	第3章第1節第2項 4 発電減水区間及び都市河川対策
第1回ふれあい懇談会	大垣会場	田用水以外特に思いつきません。	水利用として、灌漑用水以外に水道用水、工業用水、発電用水があります。	-
第1回ふれあい懇談会	一宮会場	地球環境変化に対応し、水量、水質の監視により、安全・安心で豊かな生活の維持を図る様、今後の計画をして欲しい。	新たな課題にも対応できるような整備計画となるよう努めてまいります。	-
第1回ふれあい懇談会	安八会場	生活用水、農業用水、利用	具体内容が判りませんので、お答えできませんことをご理解ください。	-
アンケート	-	水の豊かな地域に住んで幸せです。	引き続き、河川水の適正な利用に努めてまいります。	-
第3回ふれあい懇談会	岐阜会場	流水の正常な機能維持流量は三河とも渇水時1/10の確率で同一であるが、長良川のみ異常渇水時は渇水時の流量は確保できず約半分の11m ³ /sとしているが確率はどの程度か？(分科会でも質問が出た。差別では！と)治水最優先も理解できるが、長良川は鵜飼文化があり文化、歴史の観点も考えた配分をほしい。(徳山ダムからの導水による補填加等はできないのか?)またP6の表で河川整備計画において目標とする維持流量では異常渇水時の最小流量が木曾川、揖斐川が0m ³ /sで長良川が約7m ³ /s確保しているが流水の正常な機能維持のための異常渇水流量との違いは何か？	長良川では、確保を行う水資源開発施設がありませんので、確保計画として発生確率の表現は困難です。ご理解下さい。 また、異常渇水時の最小流量とは、流水の正常な機能を維持させるために必要な流量として定めている最小流量で、整備計画の目標とする維持流量とは違います。(詳細については、別途お問い合わせ下さい)	-
第3回ふれあい懇談会	岐阜会場	揖斐川水系渇水時の状況と水活用 (ア)下流部における発電所等も水不足である (イ)濃飛平野における農業用水は16年度調査発表6月下旬～7月上旬にかけて78%の水不足であると記されている (ウ)環境問題を考え一級河川、農業用水に水が無くなるのは水生生物に大きなダメージを与える (エ)水の無い川は地域が無関心になりゴミ捨て場になる	河川水の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に努めてまいります。	-
第1回ふれあい懇談会	輪之内会場	利水について例えば5月30日～9月末日の利水状況を4月28日～9月15日に利水変更の話し合いは出来ませんか？	まず、用水管理者等にご相談をお願いします。	-
アンケート	-	長良川河口堰の利水取水は堰直上流部で！！	長良川河口堰独自の水需要が発生し、安定水源として取水する場合には、河口堰直上流からとすることとしています。	-
第1回ふれあい懇談会	岐阜会場	岐阜市に流れる、境川・荒田川は、長良川から水をくみ上げて排水する様になってからは、河川域がきれいになりました。長良川下流より、知多半島への送水利用した最初は、あまり評判が良くなかったのですが、最近はどうでしょうか。	知多半島には、現在、長良川河口堰から、木曾川の渇水の影響を受けることなく、安定的に供給されて、地域発展に欠かせない水となっています。	-
アンケート	-	河口堰の利用方法の再確認	現在、愛知県の知多半島や三重県北中勢地域に補給を行っています。知多半島には、現在、長良川河口堰から、木曾川の渇水の影響を受けることなく、安定的に供給されて、地域発展に欠かせない水となっています。	-
ハガキ	-	<長良川における整備事業> 利水事業 忠節用水路の水復元	管理者にご相談をお願いします。	-
第1回ふれあい懇談会	北方会場	徳山ダムが、揖斐川の生物(シジミ、鮎等)に及ぼす影響については、あまり論議されていないが、いかほどの事があるかと気がかりである。(長良川の河口堰では大変問題視されていた)。水量が充分あり、川の水が枯渇すると考えられない為か。でも、揖斐川は伏流水で、夏は所によっては地上の水が無い場所もある。徳山ダムによる豊かな水の効用も、論議されてはいるが、多数の住民の犠牲を思っても活用を「最大限に」と願う。	揖斐川においては、徳山ダムが完成することで、万石地点において1/10規模の渇水時に20m ³ /s、異常渇水時(平成6年渇水相当)にも20m ³ /sの流量が確保されることとなります。	-

「多くのご意見をいただきましたので、現時点では河川管理者の考え方の記述に精粗がありますことをご容赦願います。」

意見をいただいた方法	開催場所	いただいたご意見	いただいたご意見に対する考え方	記載箇所
第1回ふれあい懇談会	揖斐川会場	利用した水を川に戻す方法は？	農業は、一度使われた水でも排水される河川や用水路を通して還元される場合もあります。また、下水道の再生水を利用した河川に還元した事例等もあります。	—
第1回ふれあい懇談会	揖斐川会場	川の水で炊事、洗濯、風呂の水を利用して来た事が今大変懐かしく思い出される。孫達への語り草として利用する事にもみ利水が生きている。	今後も河川水の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に努めてまいります。	—
第1回ふれあい懇談会	安八会場	利水については関心はもっと遠いものを感じる。水を生かす方法も以前とは変わってきているところもあると予測する。飲料水・工事用水、農業用水等いろんな窓でも変化や今後についても啓発活動が必要である。	これまで以上に積極的に広報に努めて参りたい。	—
第1回ふれあい懇談会	弥富会場	木曾川の塩水遡上対策を講じ、水利用をすすめてはどうかと思う。	木曾川では木曾川大堰により塩水の遡上が遮断されており、木曾川からの取水はこれより上流でなされています。	—
第1回ふれあい懇談会	木曾岬会場	知多半島に送られている長良川の水を、木曾川に戻してほしい。	木曾三川は地域の共有財産であると考えております。	—
第1回ふれあい懇談会	愛西会場	佐屋川用水の水を地元の畑地に分けてあげてほしい。	直接、管理者に要望をお願いします。	—
第1回ふれあい懇談会	桑名会場	木曾三川の豊富な水を大切にしていきたい。	貴重なご意見ありがとうございます。利水は社会の骨格となすものであり、今後も安定供給に向け努めてまいります。	第3章第1節第2項 河川水の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項
第1回ふれあい懇談会	高須輪中会場	河口堰の落差を水力発電に利用してはどうか。	小規模発電の可能性については、今後の課題として検討してまいります。	—
第1回ふれあい懇談会	木曾岬会場	河口堰からの水の利用実績もないのに建設負担分だけ支払われるのはおかしい。	河口堰建設事業は、利水計画に基づき建設されてものであることから、ご理解を願いたい。	—
第2回ふれあい懇談会	一宮会場	「想定外」が実存するという現実を直視して、臨機見直しが可能というメニューであるべきである。判っていることを前提に、一つ一つ片付けていく、これしか現実的な対応方法はないということである。	ご意見のとおり、認識しており、適切に対応して参ります。	—
第1回ふれあい懇談会	桑名会場	桑名市の渇水対策は大丈夫か。長良川河口堰の水も使えるのか。	三重県において、長良川河口堰で約3m ³ /s程度の使用できる権利を有しています。	—
ハガキ	—	<長良川における整備事業> 利水事業 境川流域(境川、新荒田川、荒田川、論田川)冬期の水確保(日野排水機場の使用)	11月から3月までの期間の日中において、日野揚排水機場を介して長良川から境川流域へ2.0m ³ /sの導水を行っています。	—
第2回ふれあい懇談会	一宮会場	流域谷筋への地下ダムの設置なども考えられないでしょうか。	地下ダムは、一般的に地下水を貯留するための構造物であることから谷筋に設置は困難であると考えております。	—
ホームページ	—	木曾川には発電ダムが多く存在しています。緊急時(渇水時)の利用についてこれらも含め検討してほしい。	これまでも緊急時に発電ダムからの放水をしたことがあります。	—
第1回ふれあい懇談会	大野会場	根尾川は渇水時に大野橋から海老橋まで地下をもぐるので砂利を取って、年間を通じて流れ魚の住める河川に出来ないものではないでしょうか。	根尾川においては、水位低下対策として河道掘削や洪水流下の支障となる河道内樹木の伐開を行うこととしています。	—
第2回ふれあい懇談会	名古屋会場	木曾川から堀川への導水は疑問、雨天時の排水路と化している堀川に流入する下水道の改善などとして、貴重な水を導水しても効果はほとんど見込めない。社会実験は早期に終了し、抜本的な流水対策を先行するべきと考える。	堀川の水質浄化のための社会実験は平成19年3月から3年間となっています。これまでの調査結果について、名古屋市では一定の水質改善効果があると公表され、調査状況等については堀川1000人調査隊HPに掲載されています。名古屋市は実験結果を踏まえ、水質改善対策を検討するものと聞いています。なお、これまで堀川では、堀川水環境改善緊急行動計画(清流ルネッサンスⅡ)の目標の実現をめざし、ヘドロ除去対策、合流式下水道の改善や名城処理場処理水質の改善、DO補給装置の設置やゴミの除去などの施策を展開しています。	—
第2回ふれあい懇談会	名古屋会場	堀川導水へあと3年間増水し、試験導水後も木曾川または徳山ダムよりの導水を整備計画等に取り入れていただけないのか。	堀川の水質浄化のための社会実験は平成19年3月から3年間となっています。試験導水完了後については、名古屋市において、実験結果を踏まえ、水質改善対策を検討するものと聞いています。	—

「多くのご意見をいただきましたので、現時点では河川管理者の考え方の記述に精粗がありますことをご容赦願います。」

意見をいただいた方法	開催場所	いただいたご意見	いただいたご意見に対する考え方	記載箇所
第2回ふれあい懇談会	名古屋会場	堀川へ導水する場合、大雨時の下水流入負荷があるため、導水水源も含めて検討してほしい。	堀川の社会実験では、大雨時には、実験を中止しています。堀川への導水水源にかかる検討は堀川の河川管理者である名古屋市において実施されるものと思われまますので、ご意見については、お伝えします。	—
アンケート	—	地球温暖化に伴い今までの水利用計画で良いのか、早く再検討し長期見通しに立った計画の実施を望みます。	ご指摘のとおり、地球温暖化等の問題について考慮した取組が重要だと考えております。	—
第1回ふれあい懇談会	神戸・池田会場(共同開催)	私は揖斐川流域ですが徳山ダムの出来て治水について(勿論農業用水)安心出来て政策的には完全と考えます。	徳山ダムが完成したことにより、揖斐川における安全度は上がっていると考えています。また、洪水調節機能の強化のため横山ダムの再開発を行い、揖斐川の治水安全度を向上させる計画です。利水については、万石地点において1/10規模の渇水時に20m ³ /s、異常渇水時(平成6年渇水相当)にも20m ³ /sの流量を確保するとともに、水利用の合理化を促進し、維持流量の一部を回復する目標としております。	—
第1回ふれあい懇談会	岐阜会場	長良川について河口堰はできるかぎり解放してもらいたい。	河口堰のゲートを開放すれば、塩水遡上の影響が生じますので、ご理解をお願いします。	—
第1回ふれあい懇談会	輪之内会場	河口堰出来てから川水の流れが悪くなり、川岸が急に深くなっている。岸から川にはいるのは危ない。平水の時、水が流れない。河口堰が開いた時雨が降ったりすると水が早く流れる。その時岸の上が流れて深くなる。	河口堰運用開始後、堰上流において流水の阻害になっていた部分の河道しゅんせつを実施しており、長良川の下流部では洪水の流下能力が向上し、大きな出水においても河口堰運用前に比べて水位が低下し、堤防が決壊する危険性が低下するなど顕著な治水効果を発揮しております。治水事業にご理解の程お願い致します。	—
第1回ふれあい懇談会	養老会場	今日の河川行政に於いて、あまりにも砂防堰(利水を目的としているものがある)の規模の大きなものが設置されています。これらに魚道は設けられているがその多くは役割を果たしていない。私は河川の「石」を利用した小規模な砂防方法を採用すべきだと思います。	県の砂防担当部局にご相談をお願いします。	—
第3回ふれあい懇談会	岐阜会場	導水路のトンネル工事によって、各務原の地下水に影響が出ないか心配である。	導水路建設による環境への影響については、事前に調査を実施します。	—
第2回ふれあい懇談会	美濃加茂会場	木曾川も瀬があつていいので川床を深く掘るのは折角の水量を有効に生かせるのでと素人なりに考える。是非、新丸山ダムにより40?/sを確保されることを期待。	木曾成戸地点において河川環境の保全等のために必要な流量の一部である40m ³ /sを確保するよう努めてまいります。	—
第3回ふれあい懇談会	桑名会場	しかし、桑名市多度町東地区においては、揖斐川より過去において下野代樋管、前川樋管、大鳥居樋管より利水をして農業を営んでまいりましたが、近年においてはその利水が出来なくなりました。その理由は上流でのダム、あるいは堰の建設等により下流への流水量が激減したためと思われる。利水の復旧または代替の検討をお願いするものです。	揖斐川では、万石地点において1/10規模の渇水時に20m ³ /s、異常渇水時(平成6年渇水相当)にも20m ³ /sの流量を確保するとともに、水利用の合理化を促進し、維持流量の一部を回復する目標としており、揖斐川において徳山ダムにより一定の流量を確保した上で導水する計画としております。引き続き、河川水の適正な利用に努めて参ります。	—
第1回ふれあい懇談会	瑞穂会場	徳山ダムの利水について当初の計画から建設の流れの中で隣県の水利用が不用になったとか、ここに来て消極的でない負担金等についても議論されるが結果論で物を言うでもダメ、将来下流住民の安全孫の代のことを考えれば絶対に必要である。いま反対、不用論は通用しない。	貴重なご意見ありがとうございます。木曾川水系連絡導水路等を最大限に活用し、水系全体の総合運用の実施に向け関係機関と調整してまいります。	第3章第1節第2項2(1)② 木曾川水系連絡導水路の建設

「多くのご意見をいただきましたので、現時点では河川管理者の考え方の記述に精粗がありますことをご容赦願います。」

意見をいただいた方法	開催場所	いただいたご意見	いただいたご意見に対する考え方	記載箇所
ホームページ	-	<p>第4回ふれあい懇談会に参加し、第9回木曾川水系流域委員会(11月22日)を傍聴しての意見です。木曾川河口部(木曾成戸地点)の維持流量(確保流量)50m³/Sには、生物環境の面からの科学的根拠は存在しないことは、関口委員からの発言でもはっきりしました。</p> <p>素人目でみても「ヤマトシジミ」の生息環境保全と塩素イオン濃度-木曾川大堰流量”のグラフとは、何の関係も意味もないことは分かります。(1984年「養殖研報」の田中論文「塩分濃度を一定にして何日生きられるか。塩分濃度は低い方が良い」というような結論を背景として用いているようですが、当該論文は「養殖するには」という問題意識での特殊な実験の結果をまとめたものです。実際の汽水域での生物の生態に関する調査でも実験でもありません。)</p> <p>「ヤマトシジミ」に分が悪いとみたのか、河川管理者は、最近「異常渇水被害」として地盤沈下に言及することが多くなりました。「異常渇水→地下水揚水→地盤沈下(不可逆的)→高潮に弱くなる」という論理です。</p> <p>まず、「異常渇水時に、後に人命に拘わるほどの無謀な地下水揚水を放置するのか？」という問題があります。実際は規制地域では、そのような無謀な地下水揚水は許されていません。一方、小規模な地下水揚水(単に個人的使用ではない、ビジネスになっているもの)については、「このときには揚水量をどうこうしろ」というふうなコントロールはきかない、という問題があります。根本的には、「水は誰のものか」について、十分な議論もなく、法体系も整備されていないからです。「水は誰のものか？」は、発電用水や農水の問題も関係します「法体系が縦割りで、省庁間が互いに譲らなくて前に進まない。だから『河川管理者が自由に使える』水を確保すべく導水路を、890億円×65%の治水費用をかけて建設する」というのは、およそ公金を使う側の考え方として間違っています(最小費用最大効果の原則を、最初から無視している)。</p> <p>また、異常渇水時の「地盤沈下=地下水揚水が原因」ではありません。1994年のような大規模な異常渇水時には、降雨による地下水涵養及び「土の湿り気全般」が失われることから、(地下水揚水を全面的に規制しても)一定程度の地盤沈下は防げません。</p> <p>さらに、「1994年異常渇水年に2cm沈下した場所がこのくらいある」ということを、伊勢湾台風での高潮による甚大被害の例に結びつけるのは、話が飛躍しすぎて、説明にも何もなっていない(「2cmか3cmか」というレベルで人命の危機があるのではない)</p>	<p>木曾川の河川維持流量50m³/sについては、水資源開発を行うにあたりこの地域の合意により設定された歴史的経緯とともに、その後の河川環境の状況を踏まえつつ全国的に標準的な手法で検討された値です。</p> <p>また、平成6年のような渇水年においては河川水の取水制限を補うための地下水が汲み上げられ海拔ゼロメートル地帯を含む広範囲な地域で地盤沈下が生じています。一度沈下した地盤は元には戻りません。地盤沈下の防止は国土保全上重要な課題です。</p>	-
第1回ふれあい懇談会	扶桑会場	貯水事業を大規模に行えないか。	木曾川水系水資源開発基本計画では、需要と供給のバランスがとれております。	第3章第1節第2項 2 流水の正常な機能の維持
第2回ふれあい懇談会	岐阜会場	異常渇水時の7m ³ /secの時に4.0m ³ /secを長良川に流した時に(4m ³ /11m ³)4割削減の遡上に影響ないか。	異常渇水時において少しでも多くの流量が確保されることにより、より多くのアユが遡上することが期待できます。	第3章第1節第2項 2 流水の正常な機能の維持
第1回ふれあい懇談会	本巢会場	環境整備による河川の利用は必要なことであるが河川に水がない時期があったり、雑木などの放置は改善すべき事と思う。	流水の正常な機能の維持のため。維持流量の回復に努めて参ります。また、支障となる樹木については、環境に配慮し、伐開等を実施するなど適正な管理に努めて参ります。	第3章第1節第2項 2 流水の正常な機能の維持
第1回ふれあい懇談会	一宮会場	昔に比べ、水量が非常に少ない様に思う。鮎など魚類が大きくならないと思う。	維持流量の確保に努めてまいります。	第3章第1節第2項 2 流水の正常な機能の維持
第1回ふれあい懇談会	岐阜会場	長良橋から上流域の水量・水位の確保一鵜飼実施の可能な水位(観覧船運航)長良橋水位14.70m	長良川には不特定容量を持つダムがなく、渇水時には河川の維持流量が確保できません。そこで、渇水時には木曾川水系連絡導水路により揖斐川から木曾川へ導水される徳山ダムの渇水対策容量の一部を経由させることによって、河川環境の改善を図ることとしています。	第3章第1節第2項 2 流水の正常な機能の維持

「多くのご意見をいただきましたので、現時点では河川管理者の考え方の記述に精粗がありますことをご容赦願います。」

意見をいただいた方法	開催場所	いただいたご意見	いただいたご意見に対する考え方	記載箇所
第1回ふれあい懇談会	養老会場	夏、牧田川の高田橋を渡って水がないのにビックリしたことがあります。	牧田川につきましては、流量調整施設がなく維持流量の確保は難しいですが、今後も河川水の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に努めます。	第3章第1節第2項 2 流水の正常な機能の維持
第2回ふれあい懇談会	岐阜会場	導水事業は ・温暖化など環境問題について全省庁的な取り組みを望む。	木曾川水系連絡導水路等を最大限に活用し、水系全体の総合運用の実施に向け関係機関と調整してまいります。	第3章第1節第2項 2(1)② 木曾川水系連絡導水路の建設
第1回ふれあい懇談会	羽島会場	飲料水は水質分析項目を増やして公表すべき。	整備計画原案(案)では、河川水の適正利用については、河川水の適正な利用として右記記載箇所のとおりと考えております。 飲料水の水質につきましては、水道事業者(県市町)にて公表等されていると思いますので、事業者にお尋ねください。	第3章第1節第2項 河川水の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項
第1回ふれあい懇談会	各務原会場	規制緩和は、この頃の気象状況を考えると困難が予想されるが、着実に推進していくことと信ずる。	貴重なご意見ありがとうございます。	第3章第1節第2項 3 渇水時及び異常渇水対策
第1回ふれあい懇談会	稲沢会場	夏になっても、飲み水の心配なく過ごせることは木曾川の有難さを感じます。	貴重なご意見ありがとうございます。利水は社会の骨格となすものであり、今後も安定供給に向け努めてまいります。	第3章第1節第2項 河川水の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項
第1回ふれあい懇談会	美濃加茂・坂祝会場(共同開催)	関心は飲料水、生活用水、農業用水が不足することなく供給される事であるが、関心が有る割には施設やシステムについて知識が無いと思う。	貴重なご意見ありがとうございます。	-
第1回ふれあい懇談会	美濃加茂・坂祝会場(共同開催)	鮎の主食となる珪藻が繁茂する川の石が、此の半世紀この地先で、90%流出している、ダムに堆積する石を下流に入れる事を義務づけるべき。川はせせらぎがあって川としての環境が保たれる。水力発電ダムの連続でせせらぎが無くなっているのは、大きな環境破壊。風力などへの転換を進めるべき。	整備計画原案(案)では、河川水の適正利用については、河川水の適正な利用として、右記記載箇所に記載のとおり考えています。	第3章第1節第2項 河川水の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項
第2回ふれあい懇談会	大垣会場	低水や渇水時における情報提供、情報交換、関係機関と利水者との連携などが示されていて大変よいメニューである。	引き続き、河川水の適正な利用に努めて参ります。	第3章第1節第2項 河川水の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項
第3回ふれあい懇談会	岐阜会場	<三川全体> 農業利水との調整を(単に過去を引きずるだけでなく)していかなければならない。木曾川水系流域委員会でも結局農水との関係は不十分な議論に終わった。「水系総合運用」と言うならそこまで踏み込まないと無駄なお金を投じる「施設対応」に追われ続けることになる。	貴重なご意見ありがとうございます。 農業用水を含む水利権については、更新時において使用水量の実態等を踏まえて適正に審査し、引き続き水利用の合理化を進めます。	第3章第1節第2項 河川水の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

「多くのご意見をいただきましたので、現時点では河川管理者の考え方の記述に精粗がありますことをご容赦願います。」

意見をいただいた方法	開催場所	いただいたご意見	いただいたご意見に対する考え方	記載箇所
意見書		<p>木曾川水系連絡導水路計画の問題点 伊藤達也（金城学院大学現代文化学部）</p> <p>I. 異常渇水時の河川環境の改善の問題 はじめに 1. 国交省による説明 2. 改善される河川環境の効果が具体的に示されていない （1）何をどれくらい守るのが明らかでない （2）連絡導水路にかかる費用算定に根拠がない 3. 連絡導水路事業は決して環境に優しくはない （1）揖斐川を根本から破壊した徳山ダム （2）個別項目の検討 a) 減水区間の解消、河川の水質悪化の軽減は果される b) 動植物の保護は果されるのか c) アユ、ウグイの産卵、ヤマトシジミの生息 d) 景観の維持は目的にならない e) 舟運への影響の軽減には誤りがある 4. 異常渇水との向き合い方 （1）異常渇水とは何か （2）異常渇水時における河川環境保全の考え方</p> <p>II. 新規利水（安全度向上分）の補給の問題 はじめに 1. 国交省による説明 2. 木曾川水系フルプランの破綻 （1）木曾川水系の都市用水使用量は減少している （2）利水安全度の低下に対するコメント a) 渇水対策の水準（利水安全度）は本来、社会の側が決定すべきものである b) 費用対効果分析の欠如 c) 選択肢の検討の欠如 d) 渇水被害を過大表示する国交省 3. 名古屋市・愛知県にとって連絡導水路の水はいらない （1）名古屋市は徳山ダムも長良川河口堰もいらない （2）愛知県は徳山ダムがいらない （3）名古屋市の工業用水は目的にならない</p>	<p>I. 異常渇水時の河川環境と渇水対策容量について</p> <p>私たちの日常生活や都市活動、産業活動は、安定的に供給される水で成立していますが、そのほとんどを河川水に依存しています。 しかしながら、河川の流水は自然のままでは変動が激しく安定的に利用できる量には限りがあり、その使用を自由に放置しておけば、いたずらに混乱が生じます。 そこで、その秩序を維持するために、河川の流水を公的管理とし、その使用については河川法上の許可（水利権）が必要とされています。 この水利権の考え方の基本としては、①新たな水利使用に対しては、従前の水利使用を尊重するとともに、河川に必要な流量を維持した上で10年に1回程度発生する規模の渇水時においても安定的な取水が可能であること。②許可された水利権については、その目的を達成するために必要な限度で取水できるものであり、水利権の範囲内であっても不必要な量まで取水することは許されないことです。 特に、木曾川水系のように、我が国の三大都市圏の一つである中京圏の社会経済活動を維持している河川では、その流水が高度に利用されており、すでに自然の河川流況ではありません。 また、木曾川水系では、河川環境の保全等に必要な流量が様々な意見を調整して設定され、それを一つのルールとして水資源開発が進められてきました。</p> <p>しかしながら、この100年間、全国的に少雨化が進行しており、特に近年は年間降水量のバラツキがますます拡大し、平成6年には全国的に大渇水となりました。木曾川水系では、木曾川や揖斐川の本川が干上がり河川環境に深刻な影響を与えるとともに、木曾川上流のダム群が涸渇して甚大な渇水被害が発生するなど社会経済活動が停滞しました。さらに、地下水揚水量の増大により、最大4cmを超える地盤沈下が広域的に発生しました。濃尾平野には、過去の地盤沈下により我が国最大の海拔ゼロメートル地帯があり、昭和34年の伊勢湾台風では、5000人を超える尊い命が犠牲になりました。</p> <p>木曾川流域における降雨状況の経年変化を見れば、今後とも平成6年のような渇水が発生する可能性は否定できません。現在の水資源開発施設だけでは、平成6年規模の渇水が発生すると、木曾川上流のダム群は枯渇し、ほとんどの都市用水が取水できなくなります。そして、既得用水の節水を含めて渇水調整を行い、都市用水に水を融通しても厳しい節水は避けられず、河川流量は干上がり、地下水揚水量が増えて地盤沈下が進みます。そこで、このような状況を回避するための渇水対策は必要不可欠なものと考えています。</p>	第3章第1節第2項2(2)水利用の合理化

意見をいただいた方法	開催場所	いただいたご意見	いただいたご意見に対する考え方	記載箇所
		<p>Ⅲ. 渇水対策容量の問題</p> <p>はじめに</p> <p>1. 渇水対策容量が徳山ダムに設定された経緯</p> <p>2. 渇水対策容量とは何か</p> <p>(1) 概説書による渇水対策容量の説明</p> <p>(2) 実際に渇水対策容量を有するダムの事例</p> <p>(3) 2つのタイプの渇水対策容量の運用方法</p> <p>(4) 2つのタイプの渇水対策容量の費用負担</p> <p>(5) 徳山ダムに確保された渇水対策容量の目的</p> <p>3. 渇水対策容量は必要ない</p> <p>(1) 正常流量の確保を目的とした渇水対策容量は今すぐ止めるべきである</p> <p>(2) 都市用水補給を目的とした渇水対策容量も基本的に必要ない</p> <p>4. 徳山ダムに設定された渇水対策容量の解釈の変遷とごまかし</p> <p>(1) 元々異常渇水時の都市用水対策として考えられていた渇水対策容量</p> <p>(2) 異常渇水時の都市用水対策理解を助長した国交省（旧建設省）</p> <p>(3) 渇水対策容量を一度も異常渇水時の都市用水対策と言っていない国交省（旧建設省）</p> <p>(4) 実は渇水対策容量の使い道を都合よく考えている国交省（旧建設省）</p>	<p>平成7年に設置された徳山ダム建設事業審議委員会では、合計13回にわたる議論がなされ、平成9年2月に「渇水に強い木曾川水系とするため、徳山ダムにおいて渇水対策容量を確保し、異常渇水時に木曾川水系に補給することは有効な方策である。」という意見が出されました。このような経緯を踏まえ徳山ダムに設定された渇水対策容量の水を木曾川等に導水し、平成6年のような渇水時においても、河川維持流量の一部を回復しておけば、これまでも渇水による社会的混乱が発生しそうな時に緊急避難的措置として行ってきたように渇水調整機能が強化でき、社会経済活動の維持と地盤沈下の軽減にも寄与するものと考えています。</p> <p>正常流量については、流域及び地域社会の歴史的経緯も踏まえつつ、全国的にみて標準的な手法で検討・設定したものです。</p> <p>また、費用対効果については、徳山ダムに貯留されている緊急水を導水路により木曾川に補給すること等により得られる便益を金額として算出することが困難であるため、同等の効用を得るために代替える施設を建設した場合の費用を算出し、当該便益としています。</p> <p>なお、回復した河川維持流量の一部を、緊急避難的措置として渇水調整機能の強化に用いることによる渇水被害の軽減としての便益は、水道用水だけで約3200億円と試算しており、また、地盤沈下の進行を防止することによる浸水被害の軽減としての便益は、約1800億円と試算しています。</p> <p>このように、木曾川水系連絡導水路の整備により、木曾川水系においては、平成6年のような渇水時においても河川環境の保全を図るとともに、渇水による社会的混乱が発生しそうな時には、中京圏という広域の社会経済活動が渇水によって麻痺することを回避しつつ、広域地盤沈下対策という国土保全上重要な効果を期待することができます。このように、異常渇水対策による恩恵は特定の者のみがかかるものではなく、広く一般が受けるものであり、また、河川維持流量が確保されることによって可能となるものであることから、その費用は河川管理者が負担することとしています。</p>	

「多くのご意見をいただきましたので、現時点では河川管理者の考え方の記述に精粗がありますことをご容赦願います。」

意見をいただいた方法	開催場所	いただいたご意見	いただいたご意見に対する考え方	記載箇所
		<p>IV. 水系総合運用の問題</p> <p>はじめに</p> <p>1. 水系総合運用の効果</p> <p>2. 水系総合運用のシミュレーションの内容</p> <p>3. 水系総合運用とはダム・河口堰だけの総合運用のことである</p> <p>(1) 河川自流依存団体が排除されている水系総合運用</p> <p>(2) 農業用水問題を議論しない木曾川水系流域委員会</p> <p>4. 水系総合運用はさらに導水路を必要とする</p> <p>(1) 木曾川水系連絡導水路計画における長良川河口堰未利用水をめぐる攻防</p> <p>(2) 対応に苦慮する愛知県</p> <p>5. 渇水対策容量、不特定容量の運用をめぐる問題</p> <p>(1) 渇水対策容量、不特定容量の目的外使用に伴う矛盾の発生</p> <p>(2) 本来の目的（河川環境の改善）の喪失</p> <p>6. 発電専用容量（徳山ダムの底水容量）の使用</p>	<p>II. 新規利水（安全度向上分）の補給について</p> <p>現在の木曾川水系に関わる地域の水需給バランスと水資源開発施設が、平成16年に閣議決定された木曾川水系における水資源開発基本計画で定められています。</p> <p>その後現時点においても、水需要が減り続けると言える状況ではなく、逆に給水制限に対する適応力は弱くなりつつあり、さらに今後とも現在の水供給能力が維持されると断定することはできないと考えています。</p> <p>水需要量については、全国的に見ても一人一日当たりの平均使用水量は減少しておらず、これまで実施してきた配水管からの漏水防止対策によるロス率の低減も限界に近づいています。</p> <p>給水制限に対する適応力については、水質管理やエネルギーの有効利用の面で、集合住宅の直圧給水が進んでいる中、配水圧力調整は上層階のみに出水不良や断水が発生するため、これまでのような配水圧力調整による節水はできなくなってきています。</p> <p>水供給能力については、近年の20年間で2番目の渇水を対象に算出したものであり、近年の少雨化傾向に変化が見られていないことから、今後とも水供給能力の低下が続く可能性は否定できないと考えています。また、近年の降雨状況は局地的に偏在する傾向も見られる他、万一、水源地域で水質事故等が発生した場合を想定すれば、極力離れた河川から取水する等、水源地域を分散化することも、リスク管理の点において大切であると考えます。</p>	

意見をいただいた方法	開催場所	いただいたご意見	いただいたご意見に対する考え方	記載箇所
		<p>V. 正常流量の確保問題 はじめに 1. 木曾川の正常流量 （1）河川維持流量と正常流量 （2）正常流量設定の手順 2. 項目別必要流量の設定根拠 （1）項目別必要流量の検討 （2）項目別必要流量の問題点 3. 成戸50m³/secの維持流量の設定根拠 （1）動植物の生息地項目の必要流量の検討 （2）実際には確保できない成戸50m³/secの維持流量 （3）説明の困難な選択肢の幅 （4）徳山ダム、連絡導水路が1/10濁水時の維持流量増強に使えない理由 4. 成戸50m³/sec制限流量の特徴 （1）成戸50m³/sec制限流量ルールの成立 （2）成戸50m³/sec制限流量ルールの評価 a) 今渡・成戸両制限流量による木曾川水利システムの特徴 b) 河川に必要な流量の確保が後追いになっていると主張する国交省 （3）木曾川河川流量の減少 （4）正常流量（確保流量）と制限流量を使い分ける国交省 a) 河川流量減少傾向の中での対策のあり方 b) 正常流量（確保流量）と制限流量の使い分け c) 制限流量の緩和と正常流量の適正化が必要である （5）成戸50m³/secの維持流量をどのように考えるべきか 5. 国交省による偏向した河川理解 （1）「ダムや堰に区切られた釣堀の連続としての河川」 （2）「川を分断する堰、分断しないダム」 （3）「河口堰の下流に守るべき生物はいない」 （4）揖斐川に対してあまりにも過大な正常流量を要求する国交省</p> <p>【別添意見書参照】</p>	<p>このようなことから、現時点において平成16年に全部変更された木曾川水系における水資源開発基本計画を見直す必要はないと考えています。また、水供給能力を増やすには長い年月が必要であり、水需給バランスが崩れてからの対応では遅すぎます。</p> <p>次に、名古屋市工業用水道に関しては、浄水場の更新により作業排水が減少すること、庄内川表流水はかんがい期のみ取水であること、下水処理水は水質に課題を抱えていることから、工業用水のユーザーである各企業からも安定的な工業用水の供給と水質の改善が強く求められており、良質な水を安定的に供給することが可能な徳山ダムへの参画が必要不可欠、と聞いています。</p> <p>Ⅲ. 水系総合運用について</p> <p>水系総合運用については、木曾川水系における水資源開発計画に位置づけられたダム等の施設が完成することにより、岐阜県、愛知県、三重県の各ブロックごとにおいて水需給バランスが図られることから、木曾川水系連絡導水路の完成を期に、水資源開発施設を効率的に運用することで利水者が等しく恩恵を受けられる方法として、一定の仮定のもとに試算したものです。</p> <p>ダム等既存施設も限られた資源であり、その有効活用として水系総合運用の具体化に向けて検討を進めていくことを、木曾川水系の水資源開発に係る、岐阜県、愛知県、三重県、名古屋市、中部経済産業局並びに東海農政局と合意しています。この検討の中で、長良川河口堰、既得水利権、発電専用容量、河川維持流量等の取り扱いも含めて、調整を図っていくこととしています。</p> <p>また、既得農業用水について、かんがい面積が大幅に減少しているにもかかわらず取水量が減らないことについては、その後の流域委員会でも審議していただいております。河川整備計画原案（案）の中でも次のように踏み込んだ記述にしております。</p> <p>(2) 水利用の合理化 取水制限流量による制約がない既得用水については、都市用水、農業用水における取水の実態、用水の多面的機能等に配慮しつつ、給水人口、工場生産設備、受益面積、営農形態等の変化を踏まえて、水利権の適正な見直しを行い、水利用の合理化を進める。これにより維持流量の一部を回復する。</p>	

「多くのご意見をいただきましたので、現時点では河川管理者の考え方の記述に精粗がありますことをご容赦願います。」

意見をいただいた方法	開催場所	いただいたご意見	いただいたご意見に対する考え方	記載箇所
			<p>IV. 正常流量について</p> <p>河川維持流量については、前述のとおり、地域の総意とし歴史的な経緯を踏まえつつ全国的にみて標準的な手法で設定したものです。</p> <p>木曾川及び揖斐川においては、その下流域における代表的な水生生物であるヤマトシジミを対象に、その生息・産卵に必要な流量を検討しています。</p> <p>感潮域の水質には様々な要因が影響しておりますが、現時点での実測データを用い、全国的にみて標準的な手法により検討を行いました。なお、今後も関連データの収集等を行い、生態系に関する知見を深めていきたいと考えております。</p> <p>また、木曾川成戸地点における河川維持流量の回復については、ダム等の施設整備等により、段階的に確保することとしており、阿木川ダムと味噌川ダムで30m³/s、新丸山ダムまでで40m³/sを確保し、残りの10m³/sについては、水利用の合理化等により確保に努める方針です。したがって、異常渇水時の確保も、施設対応の40m³/sまでが上限となります。</p> <p>揖斐川万石地点における河川維持流量の回復についても同様に、徳山ダムの不特定容量で20m³/sを確保し、残りの10m³/sについては、水利用の合理化等により確保に努める方針です。したがって、異常渇水時の確保も施設対応の20m³/sまでが上限となります。</p> <p>このように、河川整備計画で目標として考えているのは、維持流量の切り下げではなく、段階的に確保する量を示しています。</p> <p>長良川については、中流部が維持流量を設定する上での最も厳しい区間になっています。下流部については、長良川には上流に洪水調節ダムができず、大規模な河道浚渫が必要なことから、河口堰で塩止めをしています。このため、河口堰直下で揖斐川と合流することもあり、基本的に魚道流量だけとなりました。</p> <p>以上、中部地方整備局の考え方を述べさせていただきましたが、グラフ等の説明資料につきましては、流域委員会での集中審議に用いた資料がございますので、ご覧いただけますようお願いいたします。</p>	